

# 中日会報

公益社団法人 中日書道会  
 編集事務局 名古屋市  
 〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19  
 桑山ビル8階C号室  
 電話番号 (583) 19000番  
 F A X (583) 1910番  
<http://www.cn-sho.or.jp>  
[info@cn-sho.or.jp](mailto:info@cn-sho.or.jp)  
 印刷 株式会社 荒川印刷

## 名誉会長あいさつ — 総会祝辞より —



名誉会長  
神田真秋

中日書道会祝賀懇談会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

まずもって会場いっぱいにお集まりいただきました会員の皆様に、心から御礼を申し上げます。平素は中日書道会のため何かとご尽力をいただいております、この機会に深く感謝申し上げます。また、本日はご来賓として愛知県知事をはじめ多数のお客様にご臨席をいただいております、ご芳情に対し幾重にも御礼を申し上げます。

加えて、この度の第七十四回中日書道展において、晴れてご入賞されました皆様におめでとうございます。お喜びはいかばかりかと拝察しております。

さて、このたび中日書道会では役員の変更がございました。長年理事長をお務めいただきました伊藤仙游先生が、本日をもって理事長から退任

されることになりました。令和元年から三期六年にわたって献身努力いただき、中日書道会を着実に発展へと導いてくださいました。皆様はすぐに思い出していただけのことと思いますが、この在任期間中には世界中を震撼させたあのコロナ禍に見舞われ、それまで当り前と思ってきた諸活動に大きな制約を受けることになりました。しかし、その災厄を見事な手腕で乗り切られ、昨年には本会の創立九十周年の記念事業を立派に成し遂げられました。ここにあらためて、伊藤理事長の長年のご尽力に、心から感謝と敬意を表する次第です。

また言うまでもなく、それをしっかりと支えて下さったのが加藤裕副理事長、岡野楠亭副理事長であり、お二人のご貢献も多大なものがありました。この理事長、副理事長の他にも何人かの役員が、今回退任されることになりました。「本当にご苦勞様でした。また有難うございました」と、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。こうして多くの先生方が中日書道会の役員から退かれるわけですが、今後はそれぞれ書道家として一層ご活躍されることを祈ってやみません。

### 目次

- 1 名誉会長あいさつ
- 2 新理事長あいさつ
- 3 新事務局各部長・支部長・新理事あいさつ
- 4 役員一覧
- 7 第74回中日書道展審査総評 講評 結果報告
- 8 祝賀懇談会
- 33 総括
- 39 席上揮毫会
- 40 理事会・総会報告
- 21 新事務局
- 42 協賛会員
- 43 下半期本会行事予定
- 44 書道研修会案内
- 45 チャリティ愛の募金案内
- 46 書の匠展・書展案内
- 47 書の魅力公開講座案内
- 48 書きぞめ展案内
- 49 手書き文字年賀状募集
- 50 個展中展案内
- 51 編集後記



このたび新たに松下英風先生が理事長に就任されました。松下先生にはすでに本会の副理事長としての十分なご経験をお持ちですので、これからはその尊い経験をお持ちに活かされ、中日書道会のさらなる発展のため、ぐいぐいと本会を引っ張っていただきたいと願っております。一層のご活躍を一同心から祈っております。あらたに役員に就任されました先生も多くいらっしゃいますが、どうぞ新執行部として本会のためにお働きのいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

このようにして本会の執行部が一新して新体制となりました。もとよりこれからは中日書道会は、遅しなく着実に前進していかなくてはなりません。それにつけても私は、昨年九十周年を迎えた本会の歴史に思いを致しながら、「ああ、こうして新しい執行部から執行部へとバトンが受け継がれ、未来に向けて途切れることなく確かな歩みを続けていくのだな」と、深い感慨を覚えるとともに気持ちを新たにしている次第であります。歴史は永遠に不滅であります。それを担うのはまさに人です。それを担うのはまさに人です。新陳代謝という言葉があります。その時代時代を担っていただく先生方のご活躍によって、会は継続し発展していきま



神田真秋名誉会長挨拶

す。どうぞ自信と誇りを持っていただき、同時に燃えるような情熱と熱い使命感で、さらなる大きな歴史の歩みを続けていってほしいものと切望する次第であります。

今年の「中日展」はこれから始まります。本年はスケジュールの関係で、少し変則的になったようですが、皆様の素晴らしい作品と会場でお会いすることを楽しみにしております。

本日は、多くの皆様が一堂に会する貴重な機会です。どうぞお時間の許す限りゆっくりとご歓談いただき、楽しくかつ有意義に過ごしていただきたいと存じます。

最後に、皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈りして、私の挨拶に代えさせていただきます。

本日は、まことに有難うございました。

— 六月八日祝賀懇談会の挨拶に加筆しました —

## 新理事長あいさつ



### 理事長 松下英風

去る六月八日に開催されました理事会、総会において役員改選が承認され、公益社団法人中部日本書道会理事長の責務を仰せつかることとなりました。

副理事長は三名とし、事務局長と共に全て改選となりました。副理事長には、後藤啓太先生、山本雅月先生、梶山盛濤先生に、事務局長には佐野翠峰先生にご就任いただきました。大変頼もしいメンバーとなりました。

企画委員の組織改革も行い、新たな空気のもと、チーム一丸で励んでまいりたいと思っております。

今季の事業は既に決まっておりますので、来期より、新しく事業改革として行きたいと思っております。

また、第七十四回中日書道展は皆様方のご協力のお陰をもちまして、愛知県美術館と市民ギャラリーの二会場にて開催されま

した。第七十三回・創立九十周年より、企画でありました役員による席上揮毫も行い、好評で大盛況でした。生で作品制作へのスタイルがみられることもあり、入場者数も増えております。

出品点数は少子高齢化の時代的流れで減少傾向ではありますが、今回も微減にとどまりました。さらに若い世代の入場者も多く目立っていたことが嬉しい事であり、諸先生方のパフォーマンスや作品にふれ、願わくは、将来の中日書道会を担っていく人材へと育てていってほしいものです。

「喜ばしいといえば、「書道」が国の登録無形文化財となり、順当にいけば、令和八年の末には、ユネスコの無形文化遺産に登録される予定であります。そのため近年、日本各地で、書道界を牽引されている先生方による席上揮毫や講演会、各学校への派遣が行われ、書芸術や書文化を伝播し、書の

裾野を大きく広げていくよう活動が盛んになってきております。今年五月には、大阪・関西万博でも三人の書家によるパフォーマンスがオープニング式典でも行われ、各書道団体が垣根を越えて協力し合い、オールジャパンでの作品展覧会があり、場内のVR展示なども、世界に発信することができました。

何事も行事を成すことには、本部・支部を問わず、会員の皆様が一人でも多く出品・ご参加していただきたく思います。それが成功につながっていきますので、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

そして、我々の中部日本書道会は、発足当時から他ではみない、中部書壇の各会派が垣根を越えて結集しています。数多先人の先生方の献身的な努力により発展してまいりました。来年は、第七十五回記念中日書道展。そしてユネスコ無形文化遺産登録になると思えます。今後、副理事長、事務局長、企画委員と共にグローバルで楽しい企画を練ってまいります。



新理事長・副理事長

## 新副理事長あいさつ

副理事長  
梶山盛涛

この度の役員改選により、新理事にご推挙いただき、更に副理事長という重責を拝命することになりました。公益社団法人中部日本書道会の長い歴史と多くの先達の先生方のご尽力で築き上げられた伝統を思い、身の引き締まる思いです。

本会の、これまでの基本理念、目的を継承し、事業の充実、向上と共に、現代社会の変化に対応すべく、事業の厳選に努め、運営を新理事長の松下英風先生、副理事長後藤啓太先生、山本雅月先生と共に、更なる発展を目指し、職務の遂行に努めたいと思います。

今後の活動に、会員の皆様のご支援ご協力をお願い致します。何卒、よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

副理事長  
後藤啓太

この度の改選により副理事長という重責を拝命致しました。本会の九十年を越える歴史と伝統に身の引き締まる思いです。

新理事長の松下英風先生、副理事長の山本雅月先生、梶山盛涛先生と共に、任務の遂行に務めたいと存じます。

昨年、伊藤仙游理事長のもと創立九十周年記念事業が大いに盛り上がりました。

中日書道展では、愛知県美術館ギャラリーにて『書に臨むー私はこう観る』を展覧し、先達の先生方の古典に対する意識の高さと表現の深さを実感しました。

また、ナディアパークにて開催しました『書のフェスティバル みんなでSHO!』では、若い会員の結束と底力を感じることができました。

来年は中日書道展が七十五回展です。会員の皆様のご支援ご協力をお願いし、より高みを目指して参ります。

ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

副理事長  
山本雅月

この度公益社団法人中部日本書道会の副理事長を仰せつかり、身に余る光栄と同時にその重責に身の引き締まる思いでございます。

九十余年の輝かしい歴史を築き上げられた先人の諸先生方にあらためて敬意を表します。

中部書壇を代表する伝統ある公益書道団体である本会の目ざす方向性を皆様と共に共有し、「和」の気持ちをもって頑張つてゆく所存でございます。そして新理事長松下英風先生を補佐し、新理事長梶山盛涛先生、新副理事長後藤啓太先生と共に精一杯任務を遂行してまいりたいと思います。

まだまだ浅学非才の私ではございますが、諸先生方のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新理事長・副理事長発表の  
座長 加藤矢舟理事



新事務局長  
佐野 翠峰

会員、協賛会員の皆さまには平素より格別のご協力、ご尽力を賜り誠にありがとうございます。  
この度、事務局長を拝命いたしました、佐野翠峰と申します。  
昨年、創立90周年という長い伝統の本案の為、松下英風理事長のもと、企画委員一丸となり、さらなる伝統を積み重ねるべく誠心誠意尽くして参ります。  
皆さまのご協力、ご支援を賜りますようお願い致します。



新第一経理部長  
神谷 光園

本年度より第一経理部長に就任することとなり、驚くと共に重責を感じています。  
四年間第二経理部長を務めさせていただき、主に支部の経理を担当していました。共に予算書や決算書を作成しながら第一経理部の仕事を隣で拝見し、その大変さを感じていました。これまで自分が扱ったことのない大きな数字を得ましたが、他の先生方にご指導いただきながら役目を果たしていきたいと思っております。  
どうかよろしくお願ひ申し上げます。



新事業部長  
山中 桂山

この度の役員改選により事業部長を拝命致しました。新体制のもと担当部署が大きく一新されることになりましたが、理事長・副理事長はじめ企画委員の先生方と緊密に連携を取りながら、本案の重要な事業の一つである「中日展」の運営を中心に、全力を尽くす所存です。また、次長、委員の方々にもご協力をいただきながら務めさせていただきます。  
何卒ご指導とご鞭撻を賜ります様お願ひ申し上げます。



新庶務部長  
廣澤 凌舟

この度、庶務部長を拝命しその重責に身の引き締まる思いでございます。  
庶務部は総会、役員会の開催、人事資料の作成等重要な役割を果たさなければなりません。  
前部長、村瀬俊彦先生のご指導を仰ぎ、次長、委員の方のご協力を得て職務の遂行に精一杯努力して参る所存でございます。  
皆様のご支援、ご協力を心からお願ひ申し上げます。



新第二経理部長  
丸山 聖峰

この度、第二経理部長を拝命し、その責任の重大さを痛感しております。ご指名の荣誉に賜われましたのは、これまでの環境と機会を用意してくださった先生方あつてのことと感謝致しております。  
今年には私にとって、空前絶後の年、ピンチをチャンスに変え、この役目を楽しんで全うする事を目標に邁進してまいります。  
第一経理部長の御指導のもと、「以和為貴」の精神で、各部と連携を図りながら、円滑に正確な経理を本案の為に、微力ではありますが精進してまいります。



新研究部長  
磯谷 凌聴

この度、研究部長を拝命いたしました磯谷凌聴です。改めて身の引き締まる思いがし、その責任の重さを痛感しております。研究部では、十一月に公開講座、また二月には、講演会を開催することで、書の魅力を多くの方々へ発信したいと考えています。それにより書道に関心を持っていただき、一人でも多くの方々へ書を愛好していただきたいと思っております。微力ではありますが、諸先生方のご指導を仰ぎ、研究部員の方々のご協力をいただき、責任を果たしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。



新企画部長兼IT部長  
上小倉 積山

新体制の中日書道会執行部にて、企画部長を拝命させていただきました。近年の中日書道展特別展観にて「書の源流」拓本に見るその姿や「書に臨む」私はこう観る」などの企画にも取り組ませていただきました。今後は、来年度七十五回記念を迎える中日書道展や、大きな節目となる中日書道会創立百周年の記念事業に向けての企画・準備を進めていきたいと考えています。また、毎年多くの作品応募をいただいている「手書き文字年賀状コンクール」などを通じて、次の書道会を担って行く子供たちを育てることができればと考えています。



新会員部長  
水野 峯翠

この度は役員改選により、会員部長を拝命することとなりました。長きにわたり褒賞部の仕事に携わらせて頂きましたが、新しく会員部の仕事をさせていただきますこととなり、身の引き締まる思いしております。毎月会員の動向等をお知らせする仕事、また会員名簿の監修にかかわる仕事をさせていただきます。地道な仕事ですが着実に伝えていけるよう努めてまいります。皆様のご協力をいただきながら、次長、部員の力をお借りし責務を果たす所存でございます。何卒宜しくお願ひ申し上げます。



新教育部長  
川本 大幽

この度は思いもよらぬ教育部長という大役を拝命し、責任の重さを痛感しております。今年度より第一と第二に分かれておりました教育部が、統一されました。関係の各先生方、会員の皆様のお力添えをいただきながら、事業を進めて参ります。また、教育部は、大人を対象とした「書道教育研修会」と学生を対象とした「中日書きぞめ展」があり、幅広い方々への書の普及という大切な役割もありません。これからの中部日本書道会のさらなる発展のために精一杯努力して参りますので、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。



新褒賞部長  
柘 英峰

この度の役員改選人事により、褒賞部長を拝命し身の引き締まる思いで一杯です。褒賞部の分掌事務は、各種展覧会表彰及び表彰式に関する事、書道功労者等の顕彰に関する事であり、私のような浅学非才な者に、この様な重大な責務を果たす事ができるか大変不安であります。松下英風理事長はじめ副理事長、事務局長、前任の水野峯翠先生、企画委員の先生方のご指導を頂きながら、また次長、委員の皆様のお力をお借りして微力ではありますが、自分なりに精一杯務めてまいりたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。



新編集部長  
馬場 紀行

この会報二一六号の中、第七十四回中日書道展関係までは前任の林柏堂先生が最後の職責として実直に且つ完璧に編集作業をこなされました。そして、私はこの度の任期満了による新理事長はじめ各役員、部長、理事の新任挨拶と本会下半期の行事案内の掲載等を引き継ぎました。任期終了まで会報編集の任を無事全う出来ますよう、皆様のお力添えを頂きまして、落ち度の無いよう一所懸命に励む所存です。



中南勢新支部長  
堀田 花

この度、中南勢支部の支部長を仰せつかり、役職の重責に身の引き締まる思いでおります。前任の谷鴻風先生は、三期六年間に渡り支部会員をまとめ、地域の書活動の発展に努めてこられました。心より感謝申し上げます。その後、後任として、甚だ微力にて不安もございしますが、精一杯努めて参りたいと思っております。中南勢支部は、各支部の中でも会員数が少ない支部にあたり、諸行事開催の折、参加人数の増加が急務です。本年は嬉しいことに新規会員が三名増えましたが、お一人でも多く会員の方が参加して頂けるよう、支部役員の先生方にもご相談しながら、取り組んで参りたいと思っております。秋には支部展、研修会、講演会と行事が続きます。どうか今後共、本部の先生方にはご理解とご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。



新渉外宣伝部長  
伊藤 昌園

この度、渉外宣伝部長を拝命いたしました。二年前、新企画委員として厚生部長を何もわからない状態からスタートし、ようやく少しずつ仕事を覚えたとところだったので驚いております。渉外宣伝部では、中部日本書道会と外部団体等との関係の維持や構築、また広報活動を担当する事になると思いますが、引き続き、会の為に尽くして参る所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。



新厚生部長  
清水 春蘭

この度は思いもかけませぬ、歴史ある中部日本書道会厚生部長の大役を仰せつかり、その重責に身の引き締まる思いでございます。先輩方と共に初めて中日書道展祝賀会で受付の仕事をした日のことが、まるで昨日の事のように思い出されます。多くの先生方のご尽力によって築き上げられた伝統ある本会のために、諸先生方のご指導を仰ぎ、次長、委員の皆様にお力をお借りして、微力ながら誠心誠意努めてまいれる所存でございます。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



岐阜新支部長  
鈴木 蘭峰

(公社)中部日本書道会岐阜支部は平成四年発足以来初代支部長 伊藤天游先生始め重鎮の先生方が努めて来られました。この度支部長という大役を仰せつかりあまりの重責に不安しかございませぬが、役員、先生方、「全面的に協力するから」とのお言葉をいただき、微力ですが努めさせて頂きます。役員、諸先輩の先生方、事務局員、会員の皆様方のご協力を切にお願い致します。何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



新記録統計部長  
衣川 彰人

この度、記録統計部長の大役を仰せつかり身の引き締まる思いでございます。九十年にわたる歴史と伝統を受け継ぐ展覧会事業・教育事業の模様や、総会をはじめ会の運営に関わる重要な会議の議事録などを正確に記録して参ります。中部日本書道会の歩みを後世に伝えていくため、諸先生方にご指導を仰ぎ、また次長・委員の皆様にもご協力いただきながら、職責を果たせるよう精一杯努めて参りたいと思っております。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



東三河新支部長  
皆川 嗣恵

この度中部日本書道会東三河支部の支部長の大役を仰せつかり、その重責に身の引き締まる思いでございます。東三河支部は、令和九年には、五十周年を迎えようとしています。今までご尽力された歴代の支部長先生に深く感謝申し上げます。未熟な点も多々ございますが、支部会員の皆様のご協力のもと精一杯務めてまいれる所存でございます。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



新理事  
内田 翠径

この度は、公益社団法人中部日本書道会の理事にご推挙いただき、身に余る光栄と心より感謝申し上げます。令和元年より六年間、会員部長として本会の運営に携わりましたが、まだまだ未熟さを感じている中で、「理事」を拝命し責務の重大さを痛感しております。これを機に、諸先輩方のご指導を賜りながら本会の更なる発展に貢献できるように努力して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



# 令和7年度・8年度 役員一覽

役職	姓号	役職	姓号	役職	姓号
名誉会長	神 田 真 秋	理 事	広 井 秀 琳	顧 問	片 山 清 洲
名誉会長代行	樽 本 樹 邨	理 事	廣 澤 凌 舟	顧 問	加 藤 青 龍
名誉副会長	安 藤 滴 水	理 事	古 川 昇 史	顧 問	木 戸 竹 葉
名誉副会長	鬼 頭 翔 雲	理 事	丸 山 聖 峰	顧 問	木 俣 紫 香
理 事 長	松 下 英 風	理 事	水 野 峯 翠	顧 問	工 藤 俊 朴
副 理 事 長	梶 山 盛 涛	理 事	山 中 桂 山	顧 問	倉 重 拝 石
副 理 事 長	後 藤 啓 太	外 部 理 事	井 後 尚 久	顧 問	近 藤 素 光
副 理 事 長	山 本 雅 月	監 事	川 本 大 幽	顧 問	高 橋 秀 箭
理 事	天 野 白 雲	監 事	村 上 史 麗	顧 問	武 内 峰 敏
理 事	磯 谷 凄 聴	外 部 監 事	酒 井 喜 久 治	顧 問	武 山 翠 屋
理 事	伊 藤 小 游	常 任 顧 問	安 藤 秀 川	顧 問	田 中 石 雲
理 事	岩 田 澗 流	常 任 顧 問	伊 藤 昌 石	顧 問	田 中 白 雲
理 事	内 田 翠 徑	常 任 顧 問	伊 藤 仙 游	顧 問	津 田 秋 月
理 事	大 池 青 岑	常 任 顧 問	岡 野 楠 亭	顧 問	坪 井 景 照
理 事	大 木 青 嵐	常 任 顧 問	梶 山 夏 舟	顧 問	富 田 栄 楽
理 事	尾 寄 紫 光	常 任 顧 問	加 藤 子 華	顧 問	中 野 玉 英
理 事	加 藤 矢 舟	常 任 顧 問	加 藤 裕	顧 問	中 村 秀 峰
理 事	上 小 倉 積 山	常 任 顧 問	黒 田 玄 夏	顧 問	中 村 立 強
理 事	神 谷 光 園	常 任 顧 問	後 藤 汀 鶯	顧 問	波 切 童 州
理 事	川 合 玄 鳳	常 任 顧 問	近 藤 浩 乎	顧 問	丹 羽 常 見
理 事	衣 川 彰 人	常 任 顧 問	早 川 泰 山	顧 問	長 谷 部 青 徑
理 事	佐 野 翠 峰	常 任 顧 問	松 永 清 石	顧 問	平 松 采 桂
理 事	鈴 木 立 齋	常 任 顧 問	横 井 宏 軒	顧 問	松 浦 華 苑
理 事	高 木 玄 齊	顧 問	伊 藤 暁 嶺	顧 問	水 谷 海 越
理 事	柘 英 峰	顧 問	井 野 吟 紅	顧 問	村 瀬 俊 彦
理 事	中 林 景	顧 問	今 井 仙 童	顧 問	森 清 暉
理 事	長 谷 川 鸞 卿	顧 問	上 田 賦 草	顧 問	山 内 江 鶴
理 事	馬 場 紀 行	顧 問	遠 藤 栄 久	顧 問	山 際 雲 峰
理 事	原 田 凍 谷	顧 問	落 合 深 淵	顧 問	横 山 夕 葉

# 2025 第74回 中日書道展

漢字、かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字

入場料 300円  
(小・中・高生 無料)

書の匠展 作家による揮毫会 6月21日(土)13:30~ 第75回記念 中日書きぞめ展 上位作品

## 愛知県美術館ギャラリー

愛知芸術文化センター 8階(A~I室)

## 名古屋市民

### ギャラリー栄(7・8階)

<第1期>  
2025年  
6月18日(水)~6月22日(日)

<第2期>  
2025年  
6月25日(水)~6月29日(日)

2025年  
6月17日(火)~6月22日(日)

審査顧問、常任顧問、理事、監事、顧問、参与 以上  
一科審査委員、二科審査委員、依嘱作品  
海部俊樹賞・大賞・準大賞  
第75回記念 中日書きぞめ展 上位作品  
午前10時から午後6時  
最終日の22日(日)は午後4時まで

審査顧問、常任顧問、理事、監事、顧問、参与 以上  
無鑑査作品、一科作品  
中日賞・桜花賞、一科入賞  
第75回記念 中日書きぞめ展 上位作品  
障害者アーツ・アールブリュット「書」作品  
午前10時から午後6時  
最終日の29日(日)は午後4時まで

二科作品  
午前10時から午後6時  
最終日の22日(日)は午後4時30分まで

主催/愛知県中部日本書道会・中日新聞社

後援/愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市、愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市 各教育委員会



愛知県中部日本書道会文化センター  
愛知芸術文化センター  
愛知県美術館

出品数一覧表	一部 (漢字)	二部 (かな)	三部 (近代詩文)	四部 (少字数)	五部 (篆刻・刻字)	出品点数
	審査顧問	-1 9	0 1	0 2	0 0	0 0
特別出品	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
一科審	17 299	-1 63	10 79	5 37	2 18	33 496
二科審	-14 348	-4 60	-8 96	-5 26	-2 18	-33 548
依嘱	-16 240	-8 48	3 72	3 20	-1 15	-19 395
(18~25歳)	-1 2	0 0	0 1	0 0	0 0	-1 3
無鑑査	-8 210	-4 33	2 69	3 20	-2 19	-9 351
(18~25歳)	12 22	0 0	2 7	0 0	0 0	14 29
一科	-18 294	5 56	5 103	-2 22	1 26	-9 501
(18~25歳)	3 81	1 1	8 43	0 0	-1 1	11 126
(15~17歳)	1 1	0 0	1 1	0 0	0 0	2 2
二科	-34 197	-9 51	-4 99	-3 14	-12 26	-62 387
(15~21歳)	-37 278	-2 9	-15 132	-5 1	-3 1	-62 421
出品合計	-96 1,981	-22 322	4 704	-4 140	-18 124	-136 3,271

### 書 多様な表現「楽しんで」

中日書道展 名古屋で始まる

第74回中日書道展(中部) 第1期は22日まで。日本書道会、中日新聞社主催。近隣の名古屋市民ギャラリーが18日、名古屋市民ギャラリー栄でも同日まで作品の一部が展示されている。

愛知、岐阜、三重の3県の同書道会員や公募に応じた書家ら1458人が1点ずつ出展。漢字、かな、少字数、近代詩文、石や木に文字を刻んだ篆刻・刻字の

5部門がある。同書道会名誉会長代行の榎本樹郎さんは、赤い布に「兼聴獨断」と、力強い太い線と細い線を使い分けて書いた。最高賞の海部俊樹賞に選ばれた酒井喬陽さんは、大正昭和に活躍した詩人吉田一穂の詩文を題材に、面数の多い漢字とバラランス良く調和させた。同書道会副理事長の横井宏軒さん(72)は「あらゆる分野の作品が展示されている。多様な表現の仕方を楽しんでほしい」と会場を呼びかけた。第2期は同会場です。25日、1106人の書家を並べる。(水上玲菜)

多様な書が並ぶ会場=名古屋・栄の県美術館ギャラリーで



中日新聞 2025年6月19日

# 第七十四回中日書道展 審査総評



審査部長  
横井宏軒

第七十四回中日書道展に多くのご出品を賜りありがとうございます。ご入賞・ご入選されました皆様誠にありがとうございます。謹んでお祝い申し上げます。第七十四回中日書道展の審査部長を仰せつかりました横井宏軒です。

今回の中日書道展の出品者総数は、三、二七一点でした。昨年より若干数の減少になりましたが、二十五歳以下の若年層の方のご出品が六百名近くありました。多くの幅広い方々が書道の活動を日常的に励まれて携われていることが伺えました。

ご出品いただきました作品のうち依頼・無鑑査・一科・二科の作品二、二五五点の審査は五月九日(金)～五月十一日(日)の三日間、電気文化会館において実施されました。

審査は、各部門の審査会場に分かれ、力作揃いの作品の審査が緊張感の漂う中で粛々と進められました。それぞれの部門の特色を生かした多様な書体の作品、余白の美しさ、渴筆の線の深さ、軽快な流麗な運筆、字形の疎密、文字の大小の変化などの表現する技術を熱心に練習され、文字構成を工夫されるなど意欲的な作品表現をされていることがうかがえました。皆さんの力作に接し、今後も日本の伝統的な文化の書道の充実した文字表現の作品を期待致します。

なお、今回入賞を逃した作品、上位に入賞できなかった作品も甲乙つけがたい作品の出来栄えのものばかり

で、今回ご受賞された方、ご受賞されなかった方、もつと上の賞を期待された方もぜひ展示会場に足を運ばれ、ご自分の作品、他の方の作品を鑑賞され、作品制作の今後に生かしていただければと存じます。最後にありますが、審査に当たられました特別賞選考委員、一科審査員、二科審査員の先生方、また審査の係の先生方のご尽力のおかげで円滑に的確に滞りなく審査が終了しましたことを感謝申し上げます。以上で審査総評とします。



横井審査部長審査総評



特別賞選考委員

## 第七十四回中日書道展 講評

## 第七十四回中日書道展に思う



名誉顧問 西嶋慎一

昨年は臨書に特化した特別展があり、幹部の先生方もその方向を意識された作風が見られたかと思う。本年は特別に昨年のように、一つの方向性は無く、平生の活動の範囲内の制作になったかと拝する。

しかし、何人かの役員の作は、自身の芸術活動を再確認するかの様に特色ある作風を見せていた。

黒田玄夏、安藤滴水、加藤裕、近藤浩平、岡野楠亭等の作品に感ずるものがあった。

黒田玄夏は松根東洋城の句を一行に書き、濃墨の前半と墨をしばった鋭い線の後半の対比に作品の求心力を置く。大胆な構成は感性の冴えを示し、まことに若々しい。安藤滴水は濃墨でさらりと二行にまとめる。何気ない素朴な書きぶりだが、全篇に清々しい脈動が発している。加藤裕の作には敬服する。濃淡のリズムで一句をまと

めるが、濃墨を用いた筆画が、文字を離れ、空中に浮動する趣きを見せる。文字を抽象化するのではなく、ある抽象表現世界の手だてに文字を用いた、とでもいうべきか。抽象画だが、オヤ!!読めるぞ、と言った趣きの作だ。

近藤浩平の作は画面が明るい。漢字学習の成果であろう。深みのある線が健康な構成を生む。かな学習に漢字学習が必須を語る。

岡野楠亭の朱文と白文の世界は、律動豊かで奥行の深さを感じる。胸を張るのではなく、かそけき幽玄な世界に自身の感覚を託す一境地だろう。

松下英風の懐の深い世界は一格。安藤秀川の自然体は見ていて清々しい。後藤啓太、川合玄鳳はひたむきに真面目に書き切る姿が好ましい。佐野翠峰は押し出しの強

い世界。山本雅月のかなは律動が豊かだ。つまりかなの原点を強く踏え主張する。同じ女流の長老加藤子華は深み有る線で手弱かな世界を演出する。深みのある線では磯谷凄聴も健在だ。

伊藤仙游は清新、鬼頭翔雲は意地、大池青岑には行気を感じる。村瀬俊彦は律動に秀れる。上小倉積山は矢張り意地を張る。特別展をあれだけ立派にやり遂げた意地を見せる。

海部俊樹賞を受けた酒井香陽は、書く意志と流れ出す情趣の調和を考えている。漢字をより強く、かなはよりかそけく整え、印象の濃い世界にまとめた。大賞の中島千里は、もくりもくりと書き連らねる筆の運びで訴える。

中日賞の江端穂香、杉山恵子、糟谷永子の作も印象に残る。江端の次ぎ次ぎとくり出す筆の運びは一つの景色だ。筆の律動を良く感じ取っている。杉山のかなは、本来無機質なかな世界が、こちらに向って歩き出す様な動きを感じさせる。糟谷の近代詩文も画面の動きが豊かだ。筆の律動とはまた別な情緒世界が感ぜられる。

黒リボンの作が幾つか見られた。川崎尚麗は未だ六十歳代と聞く。確か厚生部長を努めたるう。土屋陽山門の後継者と目されていたらう。惜しいことだ。

中日書道会も会員減が続くと聞く。大阪の日本書芸院も同じ問題に悩んでいる。中

京と関西を代表する公益社団法人が、共にその社会性、社会での存在意義を問われている。

中日書道会は、古典を学ぶ、古典を通して技法を学ぶ。その継続の成果としての作品制作に、会運営の方向性を見出し出た。書く喜びに、作品制作の原点を見出し出すわけだ。しかし、その技術尊重がアカデミズムに陥ってはいまいか。

たとえば、短歌や俳句は、素朴な生活感の描写に制作の原点を置き、依然として旺盛な活動を誇っている。そこに書道が学ぶべき原点がありはしないかと思う。



中日書道展ご高覧の西嶋慎一先生

## 第七十四回中日書道展 講評

## 第七十四回中日書道展を見て

——多様性のなかに高さを求める



美術評論家 菅原教夫

愛知県美術館ギャラリーの展示を見てみると、翠軒流の作品があちこちで目についた。さすが鈴木翠軒の出身県だけのことはあると思ひ、同行の松下英風さんに興文会が多いですね、というとき、いえいえ興文会ばかりではないのですという答えが返ってきた。では、同じ翠軒系の千紫会？と再度尋ねたら、いえ麗筆会の作品も多いですというので、はてさて、と思った。聞いてみると、麗筆会は日展のような中央展には参加せず、しかし中部地方の地元ではかなりの会員を擁する会派ということだった。作品は翠軒流をよくこなしているの、こうした団体もそれぞれの地方で書をしっかりと伝える大切な役割を果たしていることを改めて確かめた。

今年の本展の総出品数は三二七一点。う

ち主催した中部日本書道会の屋台骨をなす

理事クラス以上の作品は会場の最初の展示室に飾ってあった。冒頭、翠軒流の話になったのは今年、同会の理事長に翠軒流の松下英風さんが副理事長から昇格したからでもあり、出品作の行草二行もの「五言二句」は淡墨ながら以前よりも線が太く強くなっているのに気付く。なるほどと思ったのは、この太く強くは目下の書道界の一種の流行ともなっているからだ。五月から六月にかけては、東京で謙慎書道会系の会派展が相次いだ、そこでもこの傾向は顕著だった。そうでない作品を出品した会員のなかには、それゆえ、ちょっと弱かったかなあ、との弱気な感想を会場で漏らす向きもあったのである。

さて、その謙慎勢では、牛刀書道会を率

いる樽本樹邨が楷書で力強く書いた「兼聴獨断」に風格をにじませ、これを継ぐ鬼頭翔雲は「窮則獨喜其身」を隸意の籠った大字で決めた。横井宏軒の隸書、瀟洒に行草の筆を運ぶ殿村藍田系の梶山夏舟と、樽本門で趙之謙ベースの梶山盛涛の兄弟。会場で会ったやはり樽本門の磯谷凌聴とはこの人が探求を続けている米芾談義になった。他に漢字では前理事長・伊藤仙游が「棲恬守逸」で墨蹟風に作域を広げ、安藤秀川は流れを意識した運筆、加藤子華は力強さ、大池青岑は独自の行草……というふうにも多様な書風が広がる。

一方、創玄書道会系の作品はどうしても墨の粗密、濃淡のバランスにその良し悪しがかかってくる。川合玄鳳はそのバランスがいいから澆刺と墨が輝き、加藤裕「俳句」は線を揺らして表現の新しい言葉を探そうとしていた。近代詩文書では他に安藤滴水、黒田玄夏らベテラン勢の作品が目をつけたのだが、このジャンルの作品は概してずらりと壁に並ぶよりも、漢字書のなかにポツンとあった方が見栄えがする。京都・竜安寺の石庭みたいなものだろう。

また、仮名では現代書道二十人展入りした近藤浩乎の元気な書風、細字の芸を披露した山本雅月、正筆会を離れて独自の道を歩き出した馬場紀行、そして村瀬俊彦が中心になる。さらに篆刻では、今秋には一門の作品を中国・杭州では発表するという岡野楠亭が注目的である。今年から現代

書道二十人展入りを果たした岡野はその多様な印風によって実力を示し、今後の日本篆刻を担う逸材。本展では、鈴木立齋と向きあうように作品がガラスケースに展示されていたが、この二人でどう中部の印を牽引していくかは斯界の興味を誘う。以上、多様性のなかに高さを求めていく姿勢はいかにも書の盛んな中部地方らしい。最後になったが、最高賞の海部俊樹賞は酒井香陽の吉田一穂詩をかけた近代詩文書。大賞は中島千里の行草で、書風から見て伊藤仙游門かと想像した。



中日書道展ご高覧の菅原教夫先生

# 海部俊樹賞・大賞・準大賞 受賞者紹介

〔作品評〕  
廣澤凌舟(三部)  
松下英風(二部)  
神谷光園(四部)  
水野峯翠(二部)  
鈴木立齋(五部)

## 海部俊樹賞 第三部 酒井香陽



この度は思いがけない身に余る賞を賜りありがとうございます。驚きと戸惑いと同時にその重さに身が引き締まる思いです。審査の

諸先生方、これまで熱心に指導下さいました師、諸先輩方、書友のおかげと感謝申し上げます。師

隸意ある文字を現代的に書きあげた快作。構え大きく気力充実。

からの助言、「自分らしい書を創りなさい」を心に留めて、この数年勉強していた隷書体を軸に作品を仕上げました。まだまだ未熟ですが支えてくれた家族に感謝し、今後なお一層研鑽を重ねて参りたいと思えます。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

### 〔評〕



## 大賞 第一部 中島千里



この度は、栄えある大賞を賜り誠にありがとうございます。これも偏に熱心にご指導下さいました師匠、又、温かく見守って下さった諸先輩方のお陰と感謝申し上げます。作品は、最初は気迫に欠け、製作に苦しみまし

た諸先輩方のお陰と感謝申し上げます。作品は、最初は気迫に欠け、製作に苦しみまし

たが、強靱な線と迫力を求めて枚数を重ねました。日々、勉強不足を感じている未熟な私でございますが、この受賞を励みに、古典の勉強を怠らぬよう精進し、また、筆で書く楽しさを広く伝えることも目指していきたいと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

### 〔評〕

雄大な筆致のこの作、最後まで乱れることなく書き上げた気力と手腕が見事な作。



## 準大賞 第一部 愛澤珠翠



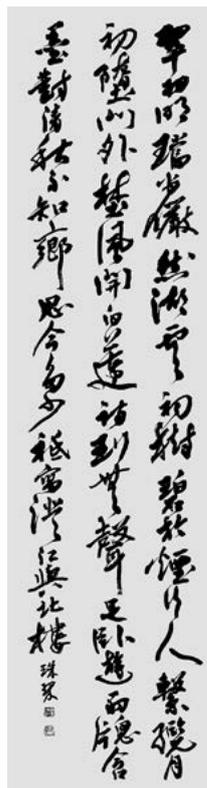
この度は、栄誉ある賞を頂き、大変光榮に存じます。これも偏に丁寧で、熱心にご指導を下さる師匠を始め、諸先生方のお陰と心より御礼申し上げます。幼少の頃に書と出会い、家族にも支えられながら、今日まで続けられているこ

密度ある行書の作。

文字の大小と行間の響きあいが高く、

### 〔評〕

とに感謝しております。作品作りに於いては、文字の大小、抑揚、墨量など、まだまだ未熟で学ぶことは沢山ありますが、今回の受賞を励みに、奥深い書の魅力に触れながら、今後ともより一層精進して参りたいと思えます。今後共、ご指導の程宜しくお願い致します。



## 準大賞 第一部 池田翠恵



この度、準大賞をいただき大変嬉しく思っております。これにも偏に、ずっとご指導いただいている先生と、いつもお世話になっている社中の皆さんのおかげです。ありがとうございます。心身共にほんやりとした不調が続いて

とご指導いただいている先生と、いつもお世話になっている社中の皆さんのおかげです。ありがとうございます。心身共にほんやりとした不調が続いて

行間を大きく取った、すがすがしさを覚える作。

### 〔評〕

行間を大きく取った、すがすがしさを覚える作。

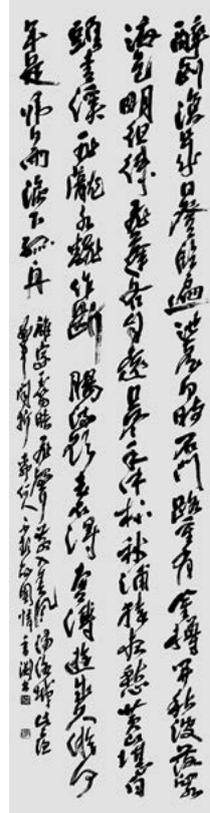


準大賞 第一部 板倉香淵



この度は、第七十四回中日書道展におきまして、準大賞を賜り誠に有り難うございます。師匠亡き後も、諸

先輩に熱心にご指導頂いたお陰と深く感謝申し上げます。今回は、小書きを入れた李白の詩です。墨



の量と行間に大変苦心いたしました。何度書いてもうまくいきません。納得のいく文字が書けるまでには、これだけの努力が必要なのだと思いましたが、この賞を励みに自強不息で精進します。今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

多字数であるが日頃の鍛錬の賜物か、行間の処理がさわやかな作。

準大賞 第一部 大嶽旭華



この度は「準大賞」を賜り、誠にありがとうございます。三年前に大きな手術をし、一時は書道に向き

合う気力を欠いていましたが、熱意ある師匠、慈愛たっぷりの先生、優しい先輩方に見守られ、家族のあたたかな支えもあり元氣になり



ました。気持ち新たに作品に向き合えた事がなによりの喜びでした。貴重な経験となり感謝しております。これからも健康に留意しながら書道を通して、知識や人間力を深めていきたいと思っております。未熟者ですが初心を忘れず精進したいと思います。今後ともご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

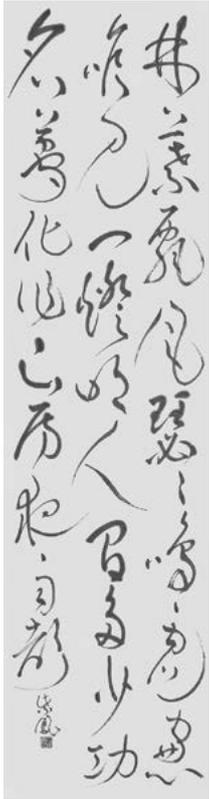
古意を得て一気に書き上げ、単体ではあるが、気の流れ上手く引き締まった作。

準大賞 第一部 伊藤紫鳳



この度は準大賞という名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。この賞を頂けま

したのも、師匠をはじめ、社中の先生方の温かく熱心なご指導のおかげと心より感謝申し上げます。



運筆、墨量、余白のバランス等を考慮しながら作品に向き合っていました。思うような線が書けず力量の無さを痛感するばかりでした。まだまだ未熟な私ですが、今回の受賞を励みに更に研鑽を重ね、この賞に恥じぬよう、より一層精進してまいりたいと思います。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

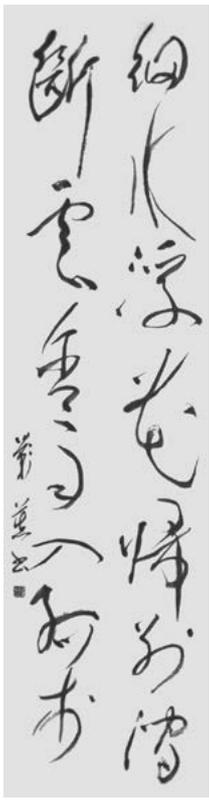
三行の行書の中に息の長さや筆圧の変化があり、重圧と軽妙さのある作。

準大賞 第一部 大西影慕



この度は、準大賞という栄えある賞を賜り、身の引き締まる思いです。

誠に有難うございました。これも偏に今まで温かく御指導下さいました亡き師匠、諸先生方、諸先輩方のお蔭と、心より感謝申し上げます。



作品を書くにあたり、構成、潤濁、余白、筆の開閉等を留意して魅力ある作品を目指しておりますが、まだまだ練習不足と自分の未熟さを痛感する毎日です。今後は、この賞に恥じぬよう更に精進を重ねて参りますので、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

二行の行書による、運筆の呼吸の長さが気持ちのよい作。

準大賞 第一部 大西和枝



この度は準大賞という身に余る賞を受賞させて頂き誠にありがとうございます。思いもよらない吉報にと

ても驚いております。これも偏に熱心にご指導いただいたという師匠をはじめ、諸先生方、何かと気にかけて励まして頂いている諸先輩の皆様のおかげだと感謝いたしております。

作品を制作するにあたり、線の強さと流れるようなリズム感を出すことの重要性和、墨量の必要性について幾度となく指導を受けてはおりますが、なかなか会得するに至っており、今回も力量の無さに心折れそうになりながら取り組んだ作品でした。今後この賞に恥じるのではないよう、より一層精進してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

堅実で豊潤な味わいがあり、行間の呼応の流れが良い作。

準大賞 第一部 香月久遠

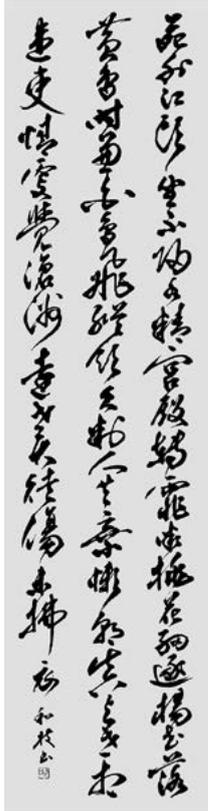


この度は第七十四回中日書道展に於きまして、準大賞という栄えある賞を賜りましたことは身に余る光栄

に存じ驚きと感激の念に堪えません。まさに青天の霹靂でございます。これも偏にご指導賜りました先生方や先輩方、そして温かく見守ってくれた家族あつてのことと深く感謝申

し上げます。何よりも幼少より書に親しむ環境と、情熱を持って導いてくれた母には今改めて深謝致します。今回の作品は心に響いた詩経の一節を書きました。拙作を見返すたびに未熟さを痛感しておりますが、これを糧に今後も研鑽を重ねて参ります。引き続きご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

多字数五行の行書は単調になりがちだが、気力充実し良く纏め上げた手腕に敬服。



準大賞 第一部 梶川美穂子

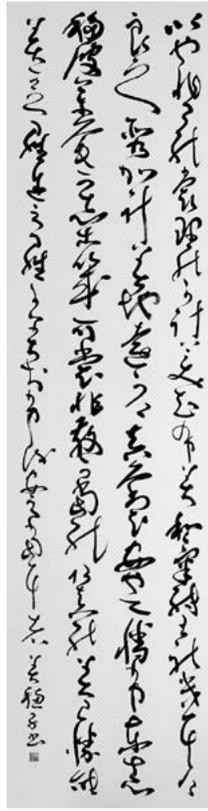


この度は、準大賞という荣誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。入賞の通知をいただいて、

思いがけない事に驚き、同時にこの賞の重みに身が引き締まる思いです。良寛の書は線が細く繊細で美しさを感じ、

墨量を意識しながらの運筆を心掛けましたが、まだまだ課題は多く、自身の未熟さを痛感するばかりです。諸先生の温かい励まし、丁寧なご指導の陰で、これまで続けてこられた事に感謝し、今後この賞に恥じぬよう精進して参りたいと思っております。何卒ご指導の程宜しくお願い致します。

縦の流れが美しい草書で行をうまく纏めており、最後まで心の乱れなく書き上げた作。



準大賞 第一部 酒井照苑

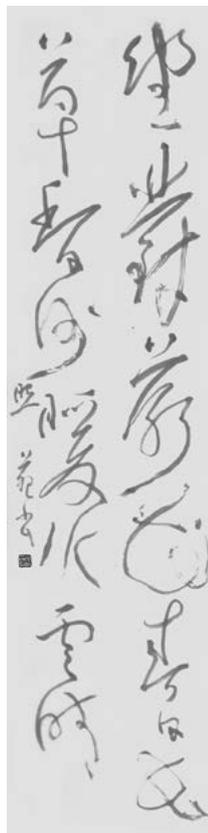


この度は準大賞を賜り、誠に光栄に存じます。身に余る荣誉に感謝の気持ちで一杯でございます。これも

ひとえに日頃よりご指導いただいております諸先生方、諸先輩方のおかげと感謝申し上げます。未熟な私の作品を繰返し繰返し添削し

ていただくと同時に、いつもはげましの言葉をかけてくださる先生がいてくださったからこそ、今まで書道が続けてくる事が出来たと思っております。その恩に報いるためにも今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

二行の草書で息の長いおらかな暖かく仕上がった作。



準大賞 第一部 笹本 菜月



この度は準大賞という身に余る賞を賜り、誠にありがとうございます。思いもよらない朗報にただ驚く

ばかりでした。こども習字から始め今日に至るまで、何度もお稽古を中断する事がありました。いつも変わらぬ温かく迎え、熱心にご指導下さった師匠、優しく気にかけて下さった諸先生方のおかげと心より感謝申し上げます。また折にふれ支えて下さる諸先輩方や書友、理解ある家族に恵まれ、今日まで続けてこられた事を本当に有難く思っております。今後も書き、学び、楽しみ、一步一步進んで参りたく存じます。

〔評〕 三行の草書であり、小気味良く最後まで氣の流れを感じる作。



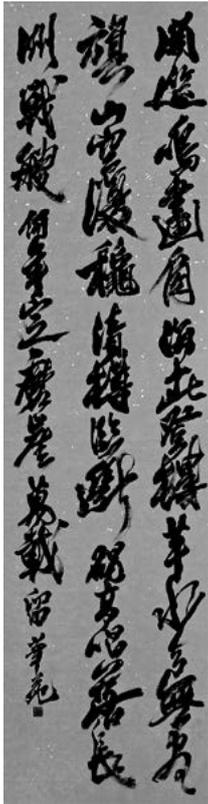
準大賞 第一部 陣内 華苑



この度は準大賞という荣誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。これも偏に長年に渡りご指導頂いた恩師を始め、諸先生方、社中の皆様、支えてくれた家族のお陰と深く感謝いたしております。

思い起こせば書道を始めたのは四歳の頃。先生には本当に長きに渡り、温かく時には厳しく、愛のあるご指導をして頂きました。現在は家事・育児・仕事と日々時間に追われていますが、書に向かう事の出来る時間に感謝し、今回の受賞を励みにより一層精進して参りたいと思います。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕 行書を楽しそうに書いていて、見る側も楽しく元気になる作。



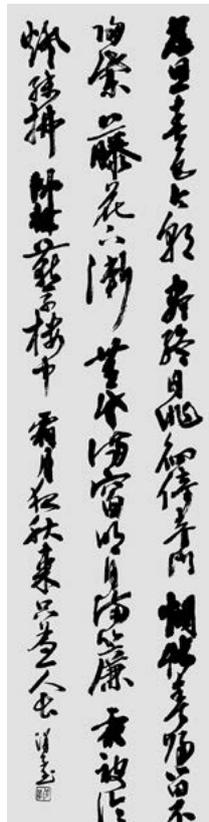
準大賞 第一部 杉山 洋子



この度は栄えある準大賞を頂き誠にありがとうございます。これも偏に師匠をはじめ社中の先生方のお蔭と心より感謝申し上げます。

師匠から「これからは審査する立場にもなるので、いろいろな書を見て学ぶように。」とのお言葉を頂き、改めて責任ある立場になったという実感と同時に身の引き締まる思いでいっぱいです。審査する立場としても多くの展覧会場に足を運び、優れた作品から美を感じ取り、鑑賞力を身につけ、自分なりに味わいのある作品を書けるように努力していきたいと思っております。今後ともよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕 多字数三行をうまく纏め、連綿を上手に制御した爽やかに品よく仕上げた作。



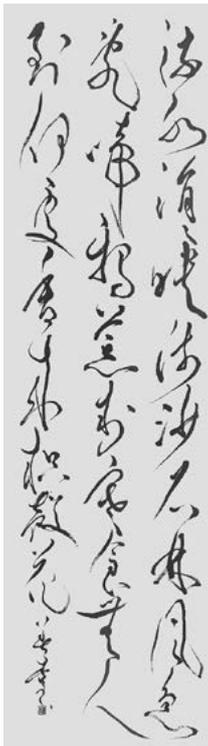
準大賞 第一部 高木 美杏



この度は準大賞という身に余る賞をいただき、誠にありがとうございます。思いがけない受賞の知らせに、ただただ驚きと喜びで胸がいっぱいになりました。仕事と書を両立する私に、いつも温かく寄り添い、丁寧にご指導くださいまし

た先生には、深く御礼申し上げます。また、真摯に書に取り組む諸先輩方の姿勢からは、大きな刺激をいただきました。この受賞を励みに、これからもより深く書と向き合い、日々精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕 三行のしつかりした行書ではあるが、リズムと流れが調和して見どころのある作。



準大賞 第一部 田中青苑



この度は準大賞をいただきました。誠に有難うございました。身の引き締まる思いで一杯です。

今回の受賞はご指導いただいている諸先生方のお陰です。深く感謝申し上げます。作品は黒と白のコントラストを意識し、線

の充実した力強さを心がけました。会場で観る作品は反省点ばかりが気になりましたが、今後の作品作りに生かしていこうと思います。この受賞を励みにこれまで以上に一層精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

〔評〕

重庄で存在感のあり、最後の落款まで気骨があふれる作。

準大賞 第一部 西川樹顛



この度は、準大賞という栄えある賞を賜り、誠にありがとうございました。受賞のお知らせをいただきました。

時は、暫く信じられず、時間が経つにつれジワジワと嬉しさが湧き上がってまいりました。未熟者の私がかれまでやって来られました。

たのも、諸先生方のきめ細やかなご指導のお陰と深く感謝いたしております。そして、昨年亡くなられた師匠に心の中でずっとご報告いたしました。少し前より墨量の扱いに悩み、未だ解決には至らず、試行錯誤を繰り返している昨今ではございますが、これからも一層の努力を重ねてまいります。

〔評〕

優しい筆致の行書であり、行間にある縦線が作品を引き締めた作。

落日在簾釣溪邊春事幽芳菲綠岸  
圍樵爽倚灘船啖雀爭枝墜飛蟲滿  
院遊濁醪誰造汝一酌散千態 青苑

準大賞 第一部 中辻芳霽



この度準大賞という大変光栄な賞を受賞させて頂き、師匠をはじめとしてお力添え、ご指導くださいました。

した諸先生方に心より御礼申し上げます。四歳から書道を習い始め、中日書道展には学生時代から出品し始めました。当時は夢、憧れ

と想っていた賞をこうして頂くことができ、今まで書道が続けてきて良かったと喜びをかみしめています。今回の経験を糧にますます腕を磨き、これからも同じ教室の書友の皆さんと切磋琢磨しながら精進していきたいと思えます。改めまして、このような賞を頂き誠に有難うございました。

〔評〕

他を厚例する墨力を感じ、両サイドに配した縦線が効果的で爽やかさを演出した作。

其無憾感其内怨志幾還命為第一貴嫁夫人自世  
嫵妓御使在斯重帝親  
余丹還情殺過禮食減重群島當引衆勝理執 芳霽

準大賞 第一部 平松和子



この度は、栄誉ある準大賞を頂き、誠にありがとうございました。これも偏にご指導下さいました先生

方と、お仲間の皆様のお蔭と心より感謝申し上げます。驚きと、よろこびと共に、賞の重みに身の引き締まる思いです。この度の受賞

出白雲主峰成南浦江萬多橋海由及在諸弟  
隔王涯涕海一身還唯海涯暮供有病未多涸埃  
答聖物跨馬出能時極目不堪人子日蕭條 和子

を励みに、初心に立ち返り、一字一字、一点一画「丁寧」に、リズム良く心を掛け、熱意を持って一層の努力をいたします。今日まで書を持ってこられた事に感謝し、今後も書を通じて多くの事を学びたいと思えます。今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

楷書三行を品良く纏め、内に秘めた力感がある作。

出園偽義陽城拔颯旋君有協規之  
効功績隆盛授龍驤將軍太府少  
御臨青男忠愍之稱寔顯於茲 和子

準大賞 第一部 福田 山 麗



この度は、準大賞という名誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。これまで温かくご指導ください

ました師匠、並びに諸先生方に改めて御礼申し上げます。今回の作品は、線の鋭さや力強さ、文字と

余白のバランスを意識し、試行錯誤しながら仕上げました。書は、学ばずには奥深く魅力的で難しいものであると痛感しています。小学生より始めた書道は、今では私の生活に欠かせないものとなっています。これからも少しでも良い作品が書けるよう努力を重ねていく所存です。今後ともよろしくお願いたします。

〔評〕

切れ味鋭いが暖かさを感じる楷書であり、迫力が表出している作。

準大賞 第一部 洞 英 翠



この度は榮譽ある準大賞を賜り、

誠に有難うございました。驚き、喜びと同時に身の引き締まる思いです。これも偏に師匠はじめ、諸先生方の温かい御指導のお陰と心

から感謝申し上げます。作品制作に当たり、濃淡、大小、遅速、余白等に考慮して書いたつもりですが、まだまだ勉強不足、力量の無さを痛感しております。これからもこの賞を糧に今の環境に感謝しながら、一層の努力を重ねて、精進して参りたいと思います。今後とも、御指導の程宜しくお願い申し上げます。

〔評〕

字間を詰め行間を広く見せ力を内に秘め、密度ある引き締めた作。



準大賞 第一部 外 村 幹 秀



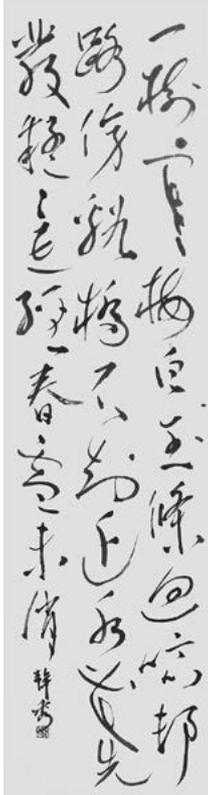
この度は第七十四回中日書道展におきまして身に余る賞をいただきありがとうございます。この賞を頂

いた意味を自分なりに理解し賞の重みをしっかり受け止め今後はより一層書道と向き合っていきたいと思っております。

また、今回の受賞はもちろんですが幼少からこれまで書道を通じてこれまでも師匠の厳しくも愛情のあるご指導、社中の先生方、諸先輩方の細やかなご指導のお陰と大変感謝しております。今後はより精進してまいります。変わらぬご指導宜しくお願い致します。

〔評〕

草書三行で、単体に見えながら間の呼吸があり気の流れを感じる作。



準大賞 第一部 松 本 春 楊



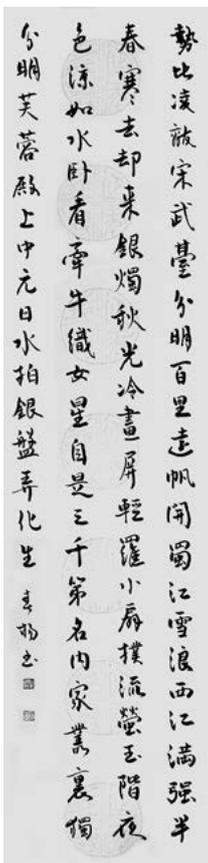
この度は、第七十四回中日書道展において、身に余る準大賞を賜り、誠にありがとうございました。

幼少より師匠のもとで書を学び続けておりますが、何足ものわらじを履いて仕事と両立しながらの書作活動で、なかなか上達いたし

ません。そんな劣等生を根気強く、愛を持って指導して下さった師匠と社中の諸先輩方には、深く深く感謝いたしております。これからは、この賞に恥じぬよう、より一層努力していかねばと肝に命じております。今後とも、ご指導のほど、よろしくお願い致します。

〔評〕

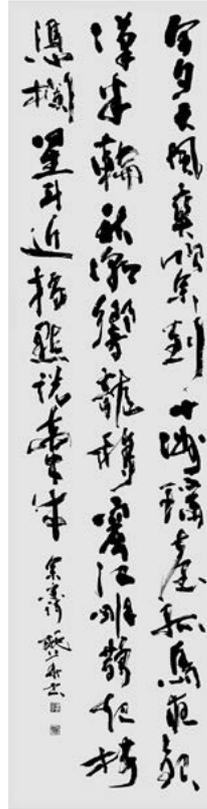
行書の単体で心にゆとりがあり、ゆつたりとした運筆が良い作。



準大賞 第一部 真野 桃 華



この度は準大賞を賜り、誠にありがとうございます。これもひとえに、今は亡き恩師をはじめ諸先生方、社中の皆様の温かいご指導や励まし、そして家族の理解のおかげと、皆様に感謝申し上げます。



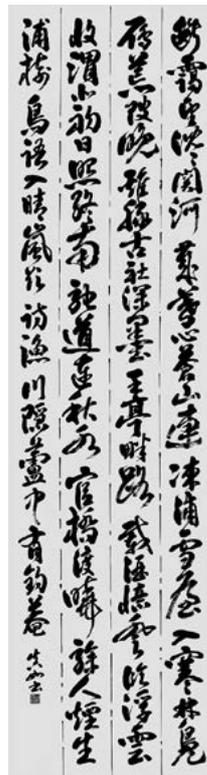
作品を書き上げる際、恩師の言葉が何度も頭をよぎり、自身の未熟さと勉強不足を痛感しました。この受賞を糧として、線の強さと柔らかさが同時に表現できるよう試行錯誤を繰り返して、精進を重ねていきたいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

〔評〕 手慣れた筆法と構成が自然で安定感がある。重圧な筆線だが行間の処理が良い爽やかな作。

準大賞 第一部 山田 真 如



この度は、栄誉ある準大賞を賜り誠にありがとうございます。これも偏に御指導くださいました先生方のお蔭と心より感謝申し上げます。書道の世界に入り、未熟な私は絶えず眼高手低を嘆き、途中下車しようと思ったことも



あります。しかし、このような賞をいただくことができ続けてきて良かったと思います。終着駅はまだ先ですが、これからも一層精進を重ね、自分磨きの旅を続けていきたいと思っております。今後とも御指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕 字間を詰めた密度ある作。行間の縦線は効果的。

準大賞 第一部 山口 含 烟



この度は、準大賞という大変名誉ある賞を頂戴し、心から御礼申し上げます。予想もしない受賞で、未だに実感が湧きませんが、これも偏にご指導くださった先輩方のお陰と深く感謝しております。



幼少時、師匠の書道教室に通い始め、筆を持つ楽しさを知りました。諸作品に取り組む時は、力量の無さに苦戦するばかりですが、初心を思い出し、楽しく筆を持ち続けたいと思っております。いつまでも未熟者ですが、この賞に恥じぬ様、精進してまいります。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕 重厚で豪快な筆致で日頃の鍛錬の成果か、行間が爽やかな作。

準大賞 第一部 山 森 蓮 雅



この度は、第十四回中日書道展に於きまして準大賞という名誉ある賞を頂くことが出来ました。大変光栄でございます。ありがとうございます。ひとえに恩師をはじめ、諸先生方のご指導の賜ものと、深く感謝申し上げます。幼い頃よ



り、書道の先生になる事を夢見ていた私に、神様が最高の先生に巡り合わせて下さったと思っております。先生や家族がいつも暖かく見守って下さったお陰で頂けましたことに心より感謝し、この賞に恥じる事のないよう、これからも一層精進してまいります。

〔評〕 力強く引いた横画に気力があり、力強さと清涼感が特徴的な作。

準大賞 第二部 稲吉 小夜子



この度は、第七十四回中日書道展において準大賞を賜り、誠にありがとうございます。

これも偏に、日頃より温かくご指導くださいます諸先生方のお陰と心より御礼申し上げます。

今回の作品は、吉野秀雄歌集より二首選び

ました。作者の書名にもある「やわらかい心」を持ちつつも、墨の潤濁、行の流れなどに気をつけて力強く書くよう心がけました。受賞を励みに、精進を重ねてまいる所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

〔評〕

上下に分けた縦作品。デザイン性に優れ、新しい潮流を感じる。



準大賞 第二部 箕浦 和子



第七十四回中日書道展で『準大賞』をいただきました。喜びの気持ちにはさることながら、ご指導いただ

いている師匠、社中の皆様方のお導きのお陰と深く感謝申し上げます。

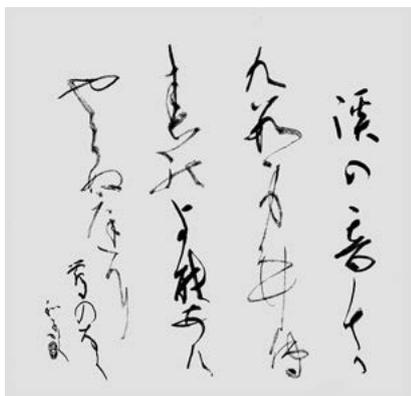
長年の勤めを終えた後、趣味として始めた書で、文字通り「六十の手習い」でした。筆を持ち稽古できる喜びの中でも、時として挫けることがありましたが、その都度師匠や家族に励まされ現在に至っております。

今回いただいた賞を励みに、今後更に精進して参りたいと決意を新たに致しました。

ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

勢いのある作品。墨量の変化が作品のスケールを大きくしている秀作。



準大賞 第二部 田村 裕香



この度は栄えある準大賞を賜り誠にありがとうございます。

入賞通知が届き大変驚くと同時に身の引き締まる思いが致しました。これも偏に温かく丁寧にご指導下さいました師匠をはじめ諸先輩

方、社中の皆様と家族の支えがあったお蔭と心より感謝申し上げます。

私にとりまして仕事・家事・育児に追われながらの書作の時間は心が無になり気持ち落ち着く大切な時間です。

まだまだ未熟ではございますが、これからも書が続けられる環境に感謝してこの度の賞に恥じぬように精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

切れ味が良い。線の勢いに若さを感じられる作品である。



準大賞 第二部 松田 眞理子



この度は、栄えある準大賞を賜り、誠に有難うございます。思いがけない受賞に、驚きと同時に身の引き締まる思いでいっぱいです。これも偏に、長年に亘り熱心に御指導下さいました師匠はじめ、諸先生方のお陰と心より感謝申し上げます。小倉百人一首を仮名文字で書きたいとの思いで、日頃から勉強して

いますが、あたたかみのある線で書くのは難しく、未熟さを痛感しております。

この賞を励みに、努力精進して参りたいと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願

い申し上げます。

大きな流れがあり、ゆったりとした好感の持てる作品である。

〔評〕

大きな流れがあり、ゆったりとした好感の持てる作品である。



準大賞 第二部 森 則子



この度は栄えある準大賞を賜りまして誠にありがとうございました。これも偏に日頃熱心にご指導下さい

ます諸先生方をはじめ、書友の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。今回の作品は「山家集」より二首を選び墨



量や線の強弱、行の流れに留意して取り組みました。かな文字の美しさに魅せられて始めた書道ですが、まだまだ未熟で、墨量の変化やたおやかな中にも凛とした線の表現など取り組む課題が多くあります。この受賞を励みに一層精進してまいります。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

縦に紙を使うことで、流麗な流れを出し仮名作品の妙を演出している。

準大賞 第三部 伊藤 久子



この度は第七十四回中日書道展におきまして、準大賞を賜り、誠にありがとうございました。いつも辛抱

強くご指導くださる先生方のおかげに他なりません。心から感謝申し上げます。私には書を学び続けながらも、自分が思い描くように



は上達しないことを先輩に愚痴ってしまつた経験があります。その時その先輩は「あなたはご家族の理解があつてこそよね?」とだけ仰いました。恥ずかしく苦しい思い出です。だから、感謝を忘れず、もがきながらそれをも楽しみ、淡々と、自分なりにこれからも書き続けます。ご指導よろしく願います。

鍛えられた線が魅力の作。立体的で振幅ある筆さばきに技術の高さを感じます。

準大賞 第三部 大倉 啓風



この度は、伝統ある第七十四回中日書道展に於きまして、身に余る賞を頂きましたこと誠にありがとうございます

常日ごろより大きな野心は持たず、去年の自分の作品より少しでも進化することだけに向き合ってきました。これからもその気持ち

を忘れないで、しよげず、投げやりならず、前を向いて、この賞に恥じないように頑張っていきたいと思ひます。



まるで爽やかな風が吹いているかの様。広い余白が作品を明るくしています。

準大賞 第三部 神戸 春谷



この度は、栄えある「準大賞」を賜り、誠に有難う御座いました。これも偏に師匠、諸

様のお陰と心より感謝申し上げます。書を通じて、会派を越えての人との出会い、新たな題材との出会い、この様な新しい出会いに心と



きめきながら、書作が出来る事を大変有り難く思っております。今や書は、生活の一部として深く根付いておりますが、歳を重ねても未熟さや日頃の勉強不足を痛感しております。今回の栄誉に恥じぬよう此からも一層精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しく願ひ申し上げます。

扁平な文字を縦長の紙に巧みに入れ込んだ作。

準大賞 第三部 笹山万喜子



本部より受賞の連絡が届き、お礼の電話をと思っておりました折に、先生よりお電話にて「近代詩での準

大賞受賞の連絡は届きましたか」とのお言葉を賜りました。大変嬉しい気持ちと共に、今後二科の審査に携わる事への責任の重さをふまへ「良い作品とはどのような所が良いのか」との先生からの日頃の問い掛けに答えられるよう、更に精進しなければと引き締めております。

〔評〕 紙から飛び出す程の動き、潤渇の変化も妙なり。



準大賞 第三部 高橋麗水



この度は第七十四回中日書道展におきまして栄えある準大賞を賜り、誠に有難うございました。これも偏

に日頃より温かくご指導頂きました諸先生、諸先輩、幼き頃よりご指導頂きました今は亡き師、そして書友の皆様のお蔭と心より感謝

申し上げます。

今回の作品は、表現方法を試行錯誤し悩む中、師の伸び伸びとリズムよく気持ちを乗せて弾んで。と可能性を引き出して下さる温かいご助言を元に書き上げた作品でした。

まだまだ未熟ではありますが、精進してまいりますので、今後共御指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

大胆なタッチで力強く迫力充分。弾む線が魅力。



準大賞 第三部 原彩霞



この度は栄誉ある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。これも偏に小一から熱心にご指導下さる

師をはじめ、諸先生方、社中の皆様のお蔭と心より感謝申し上げます。 出産・育児で休まざるをえず、再開後は転勤先より、師の「継続は力なり」を励みに、

郵便でご指導いただいた時期もありました。 この作品は自作詩で、気持ちが明るくなる言葉を紡ぎ、余白や線質の美しさ、リズム感や表現等に苦慮しながら仕上げました。

まだまだ未熟な私ですが、受賞に恥じぬよう、一層精進を重ねていく所存です。今後ともご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

あたたかく柔らかな線、リズムが自然で美しい作品となりました。



準大賞 第四部 金子弘美



この度は師に師事して四十年の節目に、このような身に余る賞を賜り誠にありがとうございます。これも偏に、温情あるご指導を注い

偏に、温情あるご指導を注い下さる師と、励まし合える明るい書友皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

作品「戒」は当初縦長で、斜角の力強さに挑戦していましたが、厳しい意味を意識しすぎて空回り……。すると師から横に広い空間をご指導頂き、まさに目から鱗が落ちる感動です。厳しさだけの戒は、師や書友をあらためてお手本にしたいという温かく豊かな意味になりました。この気持ちをいつも胸に、今

後も精進して参ります。

〔評〕 自然な流れで筆が躍動し、潤渇の迫力ある美しい作品。



準大賞  
第四部

鈴木 諧 玄

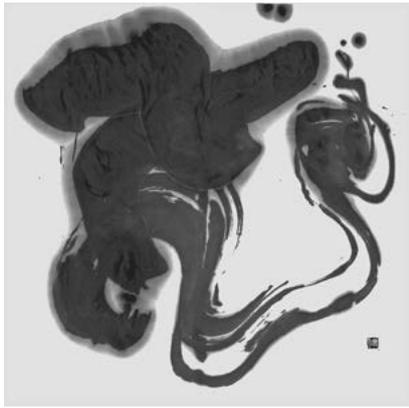


この度、中日書道展において準大賞を受賞することができ、大変光栄に思います。

まず、師匠より日々のご指導に心から感謝申し上げます。また、諸先生方の貴重なアドバイスとご支援がなければ、この成果は成し得ませんでした。社中の皆様との切磋琢磨の日々が、私の成長を支えてくれました。そして、家族の温かい応援と理解があったからこそ、ここまで続けることができました。このような素晴らしい賞をいただけたことを、心より感謝いたします。今後も精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

〔評〕

大胆な構成で、最終部分の渴筆に気魄を感じさせる快作。



準大賞  
第五部

青木 碩 山



この度は、身に余る賞を賜わり誠にありがとうございます。思い起こせば意気消沈した時期もあり、いつ

まで続けられるだろうと思った事が度々ありました。しかし長い修業の積み重ねや、日々仲良くさせて頂いている先生方の励まし、背中を押してくださった諸先生方のおかげで今日まで続ける事が出来、今回受賞させて頂く事が出来ました。心より感謝申し上げます。これからも作品の制作に精進していきたいと思っております。本当にありがとうございます。

〔評〕

刀法が巧みで、重厚感があり大胆に刻してある。



準大賞  
第五部

内田 明 男



この度は、第七十四回中日書道展に於いて準大賞を賜り誠に有難うございました。これも偏に師にご指導

を戴き、諸先輩にご助言を戴いたお陰と、心より感謝申し上げます。退職後、実家にて父親が遺した篆刻の作品を観て改めて興味が湧き、用具・教材等を受け継いだのが、私の篆刻の始まりです。今回の作品では、甲骨文字の直線的な線質・「龍」の動き等を意識し、少しでも良い表現が出来ればと思いましたが、浅学ゆえにいくつかの心残りを感じている所です。今後とも今まで同様、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

〔評〕

章法が練られており、字形が調和された佳作である。



実行委員長挨拶



審査打合せ風景



大賞・準大賞（一部）受賞者



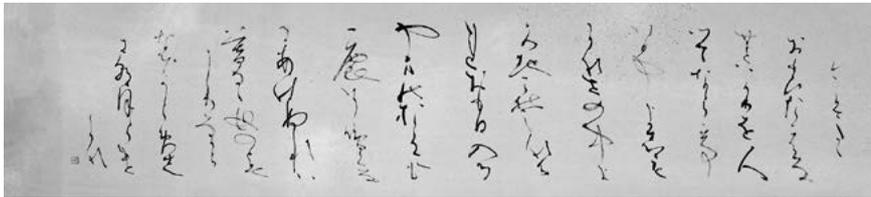
海部俊樹賞・準大賞（二部～五部）受賞者



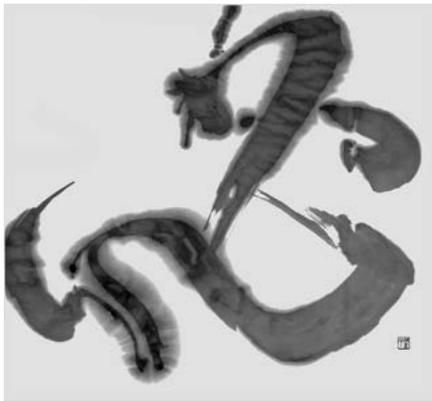
中日賞・桜花賞（一部）受賞者



中日賞・桜花賞（二部～五部）受賞者



第二部 中日賞 杉山 恵子



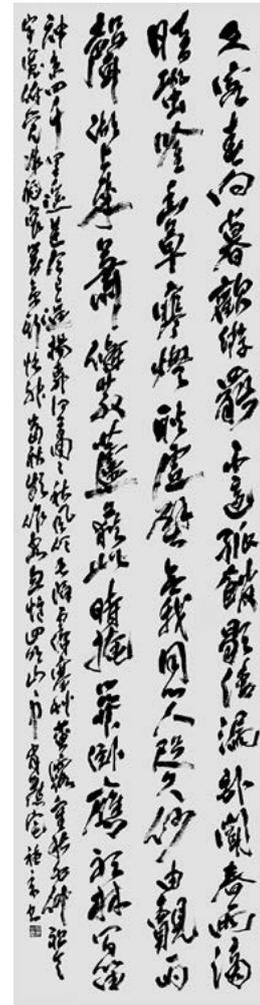
第四部 中日賞 平井 祐里



第五部 中日賞 長野 榮信



第三部 中日賞 糟谷 永子



第一部 中日賞 江端 穂香

中 日 賞

桜花賞

第一部 桜花賞 安藤 翠昂

草香沙暖火雲時  
綠楊紅杏雨城時

第一部 桜花賞 石田 李舟

遠橋坊上六知志  
長米自乞比勒傷  
久之迄來珠跡痛  
房墜於紅算堂極  
遠有路江陽地演  
狗小園

第一部 桜花賞 磯村 小園

見取池深時功武  
石鯨鱗一動私風  
房墜於紅算堂極  
遠有路江陽地演  
狗小園

第一部 桜花賞 犬塚 結理

身行市重遠田願  
產運邊唐悲盡所  
以謝歸一齋難離  
遠有路江陽地演  
狗小園

第一部 桜花賞 岩田 月扇

暖池上來雨風動  
西山帶層雲隙  
光定猶生草  
月扇

第一部 桜花賞 大迫 寿星

暖池上來雨風動  
西山帶層雲隙  
光定猶生草  
月扇

第一部 桜花賞 遠座 白果

雲霞月窟  
白果

第一部 桜花賞 門松 靜紗

紅橋粉見白毫  
切曼摩區陽路  
接拍番推謂此  
中難可為自憐  
深院得細細

第一部 桜花賞 木村 和象

潛魂柱下飛聲  
以暢靈襟神  
寫生天子學  
貴丘傳藝洞  
運史

第一部 桜花賞 兒玉 峰月

御平末門遠  
命出朝霞  
華於及秋  
色來神像  
高希以  
不飲美酒

第一部 桜花賞 後藤 紅霞

油燈  
故月  
蕭涼  
舞舞  
舞舞  
舞舞

第一部 桜花賞 小松 月泉

東城直長  
四時  
故性  
何有  
戶經  
世善  
知

第一部 桜花賞 佐藤 珠泉

何時最  
入料  
忘時  
與

第一部 桜花賞 佐藤 青葩

東城直長  
四時  
故性  
何有  
戶經  
世善  
知

第一部 桜花賞 杉山 千鶴子

白鳥金  
赤地  
云香  
車身  
人

第一部 桜花賞 祖父江 虹燕

豐子  
進命  
珍軒  
世蕪

第一部 桜花賞 滝本 柳烟

官偏  
或序  
題殊

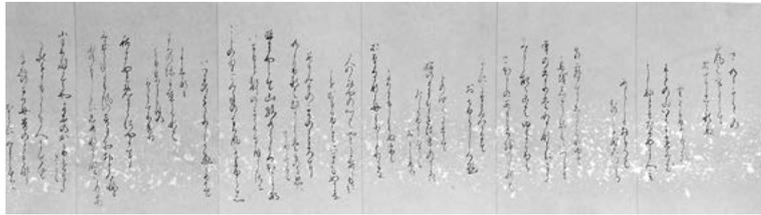
第一部 桜花賞 丹羽 碧洋

官偏  
或序  
題殊





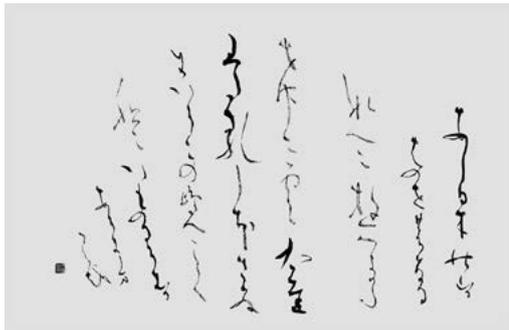
第二部 桜花賞 安藤香波



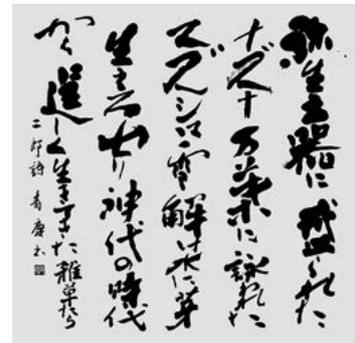
第二部 桜花賞 伊藤英美



第二部 桜花賞 三野美恵子



第二部 桜花賞 落合八代栄



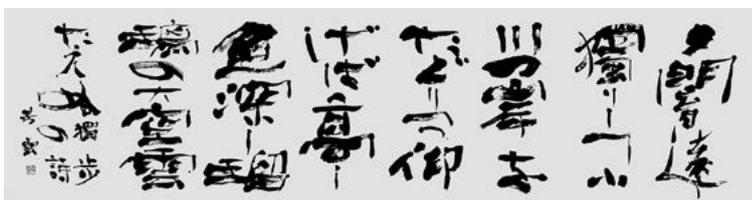
第三部 桜花賞 伊藤青慶



第三部 桜花賞 梶田夕貴



第三部 桜花賞 大田さやか



第三部 桜花賞 川口芳雲



第三部 桜花賞 集山明風



第三部 桜花賞 神村 瑤春



第三部 桜花賞 岡本裕鼎



第三部 桜花賞 岡田真奈



第三部 桜花賞 今枝瀧華



第四部 桜花賞 柘植和代



第四部 桜花賞 永見沙香



第三部 桜花賞 樋口直美



第三部 桜花賞 寺澤明珠



第五部 桜花賞 宮部 政代美



第五部 桜花賞 青木 和馨

# 中日賞・桜花賞作品評

## 第一部(漢字)

大池 青岑  
古川 昇史 評

### ○大迫 寿星

呉昌碩の臨。運腕自在にダイナミックな筆運びが魅力。

### ○遠座 白果

筆圧の強弱、直側変化による墨色の多彩表現が魅力。

### ○門松 静紗

清澄な筆線、運腕遠勢の息遣い、強弱深淺の変化あり。

### ○木村 和象

坦々とした筆致。字幅を広くとるも行間の余白が絶妙。

### ○児玉 峰月

墨量十分に紙に落とし込み、重厚感溢れる六朝楷書。

### ○後藤 紅霞

呉昌碩の呼吸を手に入れ、運腕リズムが快い優作。

### ○小松 月泉

筆鋒紙に喰い込み、運筆のリズムと行の流れが美しい。

### ○佐藤 珠泉

筆線の表情、字形の変化豊かに、悠揚とした淡墨作。

### ○佐藤 青葩

潤墨豊かな洗練された筆致。終始一貫した気力は見事。

### ○杉山千鶴子

中鋒の柔らかな線質で文字の大小、間の疎密等で心地良い作。

### ○祖父江虹燕

重厚かつ力強い筆圧で文字の大小も配置も良い作。

### ○滝本 柳烟

豊かな墨量の見事な運筆、一貫した緊張感ある線条の作。

### ○丹羽 碧洋

線が肉厚で、墨量の豊かさが作品をおだやかにして品格な作。

### ○野口 瑞葵

文字を小粒に配し収筆を程よく流し爽快感を出した作。

### ○野村 繁子

一字一字懐が広く、どっしりとした落ち着きのある作。

### ○日栄 白蓮

一貫した動きの中に古法を踏まえた熟達した技量を感じる力作。

### ○平野 遊古

骨格をしっかりとさせ、造形の美しさが表現された快作。

### ○廣野 陽風

墨量を含ませ、一気に妙腕を揮う躍動する書線風格ある作。

### ○舟橋 隆峰

淡墨で冴えた線、運筆も大きく自在、律動感のある作。

### ○水谷 鳳月

豊潤な筆線と洗練された構成、行間を明るく安定感ある作。

### ○南谷 流泉

結体引き締まり、重厚感と躍動感を表現、スケールの大きな作。

## 〈中日賞〉

### ○江端 穂香

柔の中に剛を秘めた筆線と、筆鋒を開いた渴筆が魅力。

## 〈桜花賞〉

### ○東 瑤琴

横画の呼吸長く、悠々たる気分を十分に発揮した作。

### ○安藤 翠昴

淡墨の温かみのある豊かな線、潤渴の変化に妙味あり。

### ○石田 李舟

切れのある筆線、躍動感あるリズムと流れとによし。

### ○磯村 小園

粘りのある運腕で筆鋒が深く紙に喰い入っている。

### ○伊藤 祥葉

金農の小楷を正面から取り組んだ努力作。更なる発展を。

### ○稲田 清婉

沈着かつ鋭敏な運筆で、墨気あり筆勢あり。整然たる作。

### ○犬塚 結理

自由闊達に筆が動き墨量十分。呼吸リズムとによし。

### ○岩田 月扇

重心を重くした結体で安定感あり、強弱変化あり。



審査役員の先生方



審査部長審査説明

○安田 由琳

粘り強い運筆、落ち着きと物静かな雰囲気、安定感ある作。

○矢野 棠里

厳しい筆圧で一字一字安定感を持ち、懐も広く風格の作。

○山中麻由美

重厚かつ一貫した筆力で流麗な格調高い作。

○鷺野 春翠

淡墨で気負いなく、全体にほのかな詩情を感じる秀作。

第二部(かな) 水野 峯翠 評

〈中日賞〉

○杉山 恵子

墨色と紙色の合致が落ち着きを生み、中盤の盛り上がり作品のスケールを大きくしている。

〈桜花賞〉

○安藤 香波

落ち着きの中にも流れが感じられる、好感の持てる作品。

○伊藤 英美

紙の色に墨色が引き立つ。力作である。

○落合八代栄

しなやかで、かつ力強い線で、よく纏めている。

○三野美恵子

横への動きが作品を大きくし、また、終盤を上手に納

めている。

第三部 近代詩文 廣澤 凌舟 評

〈中日賞〉

○糟谷 永子

気負いのない自然な筆致で書きあげた快心の作。響き合う行がとても美しい。

〈桜花賞〉

○伊藤 青慶

情緒豊か。行と空間が響き合う美しい作品です。

○今枝 瀧華

重厚な文字群が紙面を圧倒。氣宇雄大な作。

○大田さやか

鍛えられた線、躍動的な作。渴筆が作品を大きく見せる。

○岡田 真奈

弾む線が心躍らせる。錬度が高い魅力十分の作。

○岡本 裕鼎

確かな技術と洗練された運筆が合致した高格の書。

○梶田 夕貴

リズム良く自在な筆づかい。自然な行の傾斜が見事。

○神村 瑤春

力みのない自然体の作。温かく純朴な雰囲気。

○川口 芳雲

隸意をとり入れた爽快な作。明るく美しい作品。

○集山 明風

粘る線が魅力の作。スケー

ル大きくのびやか。

○寺澤 明珠

重厚な線質で墨量豊か。リズム良く大らか。

○樋口 直美

爽やかで繊細。気脈通り明るい作品となりました。

第四部(少字数) 神谷 光園 評

〈中日賞〉

○平井 祐里

筆面深く紙面に食い込んでいて、気韻豊かな作品。

〈桜花賞〉

○柘植 和代

筆力剛健で、気力の充実した安定感のある作品。

○永見 沙香

鋒がよく活動していて、豪快で変化に富んだ作品。

第五部(篆刻) 鈴木 立齋 評

〈中日賞〉

○長野 榮信

空間を効かせた構成が絶妙な作品である。

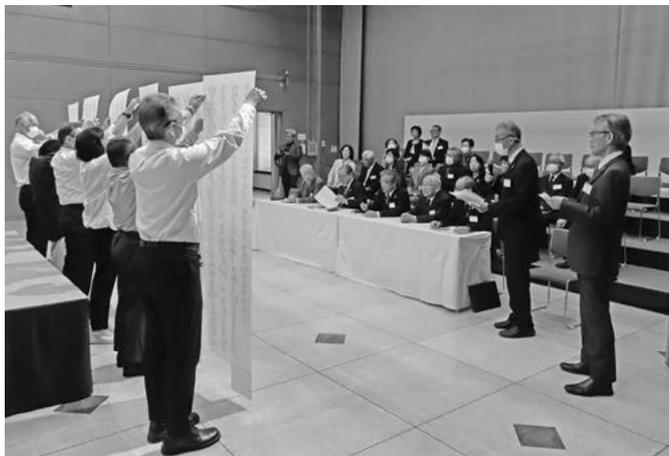
〈桜花賞〉

○青木 和馨

鄧派を基調とした、動的な線質が魅力的である。

○宮部政代美

呉翁を基調とし、各字の間合いの呼応が巧みである。



一部特別賞選考



作品出し (二科一部)

一科・二科入賞者

一科

第一部(漢字)

推薦  
 安藤 雄岳  
 岩根 桂月  
 坂口 丹華  
 佐橋 美風  
 野田 珠華  
 原 かをり

犬飼 清真  
 酒井 彩粹  
 坂口 結衣  
 角田とも子  
 浜島 明翠  
 渡辺 春燕

特選  
 飯田 華翠  
 伊藤 鶴雲  
 犬塚 琉璃  
 今枝 桃彩  
 岩田 玲雨  
 大畑 豊泉  
 加藤 紅珠  
 北堀 華暎  
 阪上 珠基  
 佐藤 瑠月

泉 彩音  
 稲葉 碧陽  
 今井 冬葩  
 今川 流秀  
 小岩 竹湖  
 加藤 溪雪  
 神田 真珠  
 桑山 紫香  
 佐久間 清月  
 澤里起与古



一科一部審査風景

準特選

窪田 有桜	木村 秋波	木下 歩美	河出 長女	川井 祥光	蒲野 綾扇	加藤 真由美	小野 遥月	小笠原 寧秀	岡崎 真理	大谷 祥雨	大澤 浩子	馬場 春蘭	鶴飼 水影	岩本 麗泉	伊東 彩楓	居初 江陵	石黒 真泉	池阪 圭月	朝居 華緒	相崎 実桜	渡邊 照花	山田 菜々	村瀬 鶴翠	水野 乃愛	星野 美雪	深谷 祐加里	濱野 瑞帆	則竹 彩園	中村 真友子	土屋 美加	辻 翠松	武田 芳雨	高松 光月	高橋 香織	蘭井 峻瑛	白木 友梨	島津 瑤春
栗山 万嬉	沓脱 祥子	木下 桃香	鬼頭 碩山	川合 碩山	柄澤 信一	兼村 紗也加	小野 坂里楓	小川 香風	小笠原 美苑	大橋 美泉	大島 千可子	大池 那由	内田 翠澄	植村 静露	井上 玄城	伊東 華水	石原 美佐江	石川 佳翠	安福 陽翠	秋田 花泉	山田 涼泉	矢田 游舟	宮永 紅雅	前田 研城	福士 碧茜	林 律翠	濱中 葵	丹羽 紅翠	中村 珠星	土本 仁美	高森 良鶯	高橋 美華	高田 夏朋	杉山 翠蹊	清水 香名		
渡辺 妃翠	渡辺 静扇	吉原 清華	山城 璃来	山内 清華	森島 光華	森 想聲	溝口 千柰	水谷 紫穂	松井 香峰	前野 秋豊	古澤 萌春	日比野 弘心	日置 康苑	林 節香	長谷川 華風	野田 澄香	西尾 芳清	中村 智恵子	中村 光麗	寺田 雅風	辻 永恋	種子 島瑞季	谷口 夏鈴	田中 秋映	田中 光華	住田 花珠	菅溪 映美	白井 孝心	嶋村 小楓	柴田 智紅	佐々木 映花	近藤 碧霄	後藤 美川	後藤 翠萌	小塚 麻菜	河野 東光	黒澤 美翠
渡會 祥雲	渡邊 智祥	脇田 采藍	横井 佳汀	山家 想琴	安田 麗花	森川 璃月	森 亜李沙	水野 華瑤	参川 秀岷	増田 千咲	星野 ころ	藤田 玖巳	飛田 泰仙	林 里奈	早川 楨城	野々川 翠扇	丹羽 白桜	西尾 景佳	中村 星耀	外山 優奈	鶴見 常風	玉置 奈緒子	谷口 朝花	田中 大翔	田中 恋	武井 こむぎ	鷺見 桃華	新貝 愛心	清水 紅花	芝田 芳茜	佐藤 清峯	阪井 青穹	近藤 翠香	後藤 雙華	小塚 白樹	小木 曾美空	黄 容琇



一科(第一部)当番審査員

秀逸

- 北村 玉風
- 川添 陽泉
- 河合 晃城
- 加藤 華容
- 小田 哲廣
- 荻野 玉堂
- 小川 敦子
- 大林 靖奈
- 大橋田巴生
- 内山紗都子
- 岩田 純子
- 稲積 梅山
- 伊藤 松園
- 伊藤 圭華
- 石嵩 桜花
- 飯田 紫泉
- 在藤 花昌
- 浅野 映華
- 新井 翠眉
- 安福 展翠
- 石川栄利子
- 五十川朱翠
- 伊藤 紫眺
- 伊藤 祥子
- 今井 千寿
- 牛田 光星
- 太田 祥玉
- 大林 霞風
- 大山 華穂
- 小川 露桜
- 奥野 葉月
- 小野田知美
- 上ヶ平香川
- 川瀬 実咲
- 木島 美翔
- 木根 朋哉
- 木村 香葉
- 杳名 香花
- 國立 照雲
- 小林 羅文
- 小原 洗苑
- 神原 玉瑠
- 佐藤 紅華
- 里中 麗香
- 塩野谷厚志
- 柴田智香子
- 庄野 照香
- 杉浦 直照
- 杉本 和代
- 鈴木 凱登
- 祖父江幽華
- 高橋 薫麗
- 竹内 重則
- 武山 春雪
- 館 鈴木
- 田名瀬友恵
- 清原 乙華
- 久保園泰仙
- 小林 鶴嬰
- 近藤 虹穂
- 阪田 華香
- 佐藤 幽水
- 澤田 麗香
- 柴田 瑞留
- 澁谷 弘峯
- 杉浦 克哉
- 杉寫 瑞映
- 杉山 瑤華
- 鈴木 雪香
- 高橋 暁湖
- 高松 美月
- 竹村 藍水
- 多田 汀優
- 田中 紫芳
- 谷口貴代子



二部特別賞選考

入選

- 片桐 清風
- 鬼塚 佳香
- 大橋 栖空
- 太田 礼美
- 大久保寧音
- 梅村 香園
- 井上 美雪
- 石川 秀山
- 青野 翠煙
- 渡辺 清泉
- 若山 芝春
- 吉田 惠翠
- 万木 桃風
- 山田 幽寂
- 山田英津子
- 安江 望樹
- 村上 澄暎
- 宮地八千代
- 美濃部 純
- 水越 鈴雪
- 間宮 映川
- 松井 如粹
- 堀 友奏
- 古田 翠楊
- 福田 将山
- 平野 朝陽
- 早野 春扇
- 服部 久敬
- 橋部 天音
- 野呂 竹泰
- 野田 霞月
- 中野 紫泉
- 富田 光風
- 徳倉 有鄰
- 藤松 浩視
- 寺尾 利佳
- 津坂 利佳
- 田原 清明
- 田淵七夏香
- 辻 聖漣
- 寺澤 藍葉
- 遠山 正幸
- 戸谷 草風
- 中西 桜穂
- 野口 佳泉
- 野中 菁華
- 羽実 祥鳳
- 長谷川叶美
- 花井 志翠
- 原 尚美
- 廣川 蒼岳
- 福山 仁雅
- 堀 清順
- 本間賀世枝
- 松浦 華峰
- 水越 陽春
- 三井 和子
- 宮川 桂風
- 三輪 翠陵
- 村山 佑菜
- 山崎咲也香
- 山田 隆久
- 山中 豊翠
- 余語 春美
- 吉田 陶染
- 渡邊 花翠
- 生田 大雅
- 伊藤 翠晨
- 鶴飼 華音
- 大池 青遥
- 大島 慶玢
- 大野由美子
- 大矢 史枝
- 梶谷まち子
- 加藤 喜峰

準特選

- 浅井 雅子
- 池田 宮子
- 内田 洋子
- 梅山 瑞加
- 鈴木 和子
- 中島 安奈
- 西山 孝子
- 東 美千代
- 石村 晃子
- 打田るり子
- 近藤 弘美
- 寺島 恵利
- 中島ちづ子
- 畠山美智子

特選

- 岩内すみれ
- 太田 加代
- 佐野ひろみ
- 森 登美子
- 氏原富貴子
- 加藤 孝子
- 村上 史子
- 和井内真百合
- 近藤 尚子

第二部(かな)

- 渡部 優彩
- 吉峯 理櫻
- 山田 一華
- 村上 庸子
- 三井 蓮孝
- 水谷 清翠
- 伴 清華
- 羽田野雅扇
- 中村 桐花
- 中野 和陽
- 長澤 優子
- 棚橋 雅穂
- 田中 美景
- 杉山 寿峰
- 城越 千鶴
- 佐々木映雪
- 近藤 鷺秀
- 小林 秋月
- 後藤 智明
- 川村有紀奈
- 加藤 千冬
- 加藤 清苑
- 神谷 美艸
- 神戸 笙詩
- 小西 萩花
- 児山 浩子
- 神原 俊碩
- 島崎 梨沙
- 杉本 錦楊
- 高田 幸枝
- 田中 凌山
- 中井 翔園
- 中出 紅和
- 中村 蕙風
- 能見 啓練
- 服部 紫翠
- 松原 信子
- 三井 恵子
- 村上 紫江
- 村松 泰然
- 山本 瑠幸
- 渡邊 湖夕



一科(第二・四・五部)当番審査員



一科三部審査風景

- |       |       |       |            |
|-------|-------|-------|------------|
| 丸山 仁美 | 山田 弘子 | 森平 りえ | 第三部 (近代詩文) |
| 浅野 蛍雪 | 阿部ひろみ | 作田 紫泉 | 推薦         |
| 市川 裕子 | 鏡味 洋子 | 横地 清子 | 特選         |
| 神谷 昌代 | 川口 和子 | 安藤 秀苑 | 特選         |
| 川中永津子 | 小林 明美 | 石黒 麗月 | 特選         |
| 杉浦 純子 | 杉浦 雅子 | 伊藤 美文 | 特選         |
| 高津 朱美 | 中嶋紀久代 | 加藤 美香 | 特選         |
| 野澤恵美子 | 萬代 京  | 五藤しのぶ | 特選         |
| 深谷紀代子 | 古橋 葉子 | 但馬日菜子 | 特選         |
| 三浦 節子 | 宮田 昭子 | 坂 翠風  | 特選         |
| 稲村 洋春 | 岩田 香翠 | 水野 裕子 | 特選         |
| 大平 貴子 | 岡田てつみ | 守屋 青霞 | 特選         |
| 加藤 淳子 | 河村 友紀 | 百合草瑞舟 | 特選         |
| 是枝 信也 | 高橋 翠葉 |       | 特選         |
| 原田 賀代 | 原田由美子 |       | 特選         |
| 山下 晴美 |       |       | 特選         |

- |       |       |        |       |
|-------|-------|--------|-------|
| 稲垣 嘉雅 | 今橋 久子 | 緒川 莉子  | 樋口 春美 |
| 小田 美祥 | 小野心丸知 | 船橋明日香  | 廣浦 須寿 |
| 柿田 理恵 | 片山 沙弥 | 真野 蓮音  | 深谷富士子 |
| 片山 葉那 | 金澤 春陽 | 三吉 昭江  | 古川 智貴 |
| 蟹江 和江 | 川島 豊翠 | 湯之上桃琶  | 三嶋 寿扇 |
| 川原 香泉 | 木藤 維香 | 和田ひまわり | 山田 陽水 |
| 木村 歌暖 | 小室 桃柯 |        | 吉川 抱雲 |
| 齋藤 孝貴 | 阪井 七海 |        | 渡邊 双輝 |
| 佐藤 信子 | 杉本 百桜 |        | 飯塚 花香 |
| 鈴木 環翠 | 鈴木 澄恵 |        | 石原 遙佳 |
| 高倉 佳風 | 高田 有紗 |        | 今枝 順子 |
| 田中 寿風 | 寺井 嘉有 |        | 梅田 栄香 |
| 寺嶋 祥香 | 服部 麗泉 |        | 尾関 麗風 |
| 演砂 恵慧 | 福應 一蒼 |        | 河本 眞翔 |
| 堀 菜々美 | 松原 瑞穂 |        | 栗本 陽水 |
| 宮林 祥苑 | 三輪 天音 |        | 高橋 宏毅 |
| 村上 春風 | 柳澤 心那 |        | 橋本 華水 |
| 山田 清漣 | 横井 馨子 |        | 坂 みゆき |
| 横井 照子 | 吉田 玉枝 |        | 廣瀬 芳雲 |
| 吉原ゆう子 |       |        | 堀田 勢津 |
| 安藤 昭亭 | 伊藤 有澄 |        | 松井 彩華 |
| 伊藤寿美乃 | 伊藤 園子 |        | 水野 玉照 |
| 伊藤 尚子 | 今橋 由利 |        |       |
| 岩間 康子 | 上田 馨星 |        |       |
| 大霜 恵美 | 太田 遥  |        |       |
| 大久 瑞生 | 大森 康燿 |        |       |
| 笠井帆乃香 | 河口 航毅 |        |       |
| 河瀬歩乃果 | 後藤 煌雪 |        |       |
| 後藤 千鶴 | 後藤 夢芽 |        |       |
| 小西 香織 | 小林 瑞苑 |        |       |
| 近藤 勝子 | 佐藤香代子 |        |       |
| 佐藤 玉華 | 島戸 香蘭 |        |       |
| 白崎 力  | 菅原 佳月 |        |       |
| 高木 夏蓮 | 永井 鳴琴 |        |       |
| 長江 紅霞 | 中村 有沙 |        |       |
| 中村 朋恵 | 成田 長男 |        |       |
| 野田 美奈 | 長谷川素雪 |        |       |



一科 (第三部) 当番審査員



四部特別賞選考

入選 山本 康二  
鈴木 夏代  
林 淳子  
中谷 釣月  
日高 橋扇

第五部 (篆刻・刻字)  
近藤 絳春  
特選 江崎 桂  
江崎 敬介  
準特選 岡田 義明  
岡田 義明  
加藤日出男  
高槻 和子  
松本 恵霞

秀逸 池田 幸子  
石路 幸子  
河村 一雄  
石川 祥紅  
本村 葦雀  
寺本 九齋  
佐藤 敬顕  
押田 白蓬  
鈴木 玉晶  
上小倉由美

二科  
第一部 (漢字)  
陳 鈍公  
松野 悦子  
湯浅 茅咲  
入選 鶴飼 要  
鈴木 惠雅  
古田富美子  
白川 眞弓  
高木 啓志  
中野 泰司  
溝口 麥愛

石垣 里佳  
石橋 華舟  
伊東 光翠  
伊藤 薰子  
江崎 清有  
木村 繁美  
木村 泰地  
後藤 琉哉

池田 春麗  
石橋 華舟  
伊藤 光翠  
石原 桐華  
石垣 里佳  
伊藤 薰子  
江崎 清有  
木村 繁美  
木村 泰地  
後藤 琉哉

奨励賞  
吉田 琉那  
森 翠香  
村瀬美奈絵  
宮永 紅輝  
松本 彩樹  
松枝 龍峯  
野田 閑月  
中野 遥斗  
高山 彩雪  
清水 真弥

青木 青雲  
浅井 玉麗  
浅井 那月  
網本 朱栞  
池田乃々葉  
伊藤 心花  
伊藤 瀬奈  
井藤美穂子  
井上 美結  
今枝 敦美  
岩上 夏月  
浮田 汀舟  
宇佐見真吾  
江川琥太郎  
大池祐一郎  
大林 小桃  
岡田 由香  
春谷 翠月  
加藤 幸子  
加藤 俊光  
加藤 正明  
加藤 緑苑  
神谷恵美子  
川喜田明美  
川瀬久瑠実  
川村 彰子  
神沢 紅峯  
木谷 珠緒

赤羽 志乃  
浅井 江鳳  
阿部 有希  
安藤 愛桜  
石井 豊晃  
伊藤 早苗  
伊藤 健  
犬飼 張華  
今泉 琉鈴  
今西 玄樹  
上野 瑞香  
宇佐美早苗  
江上 雅美  
江口 美優  
大栗 秀霞  
大村 悠仁  
寛 梅園  
片山 美奈  
加藤 春江  
加藤 真緒  
加藤 優菜  
金津 路草  
神谷 秀峰  
川口 璃峰  
河田 知之  
川本 悠斗  
菊田 悠斗  
葛原 青蘭

山下 翠庭  
毛利 秀閣  
宮原 伶歌  
三笠 碩城  
松本 由華  
平野 桃園  
野田 華春  
中川 香舟  
関戸 理伊

清水 矢雲  
高立 溪玉  
國立 美崑  
小島 未華  
後藤 楓  
近藤 貴鳳  
近藤 遥  
齋藤 耕雲  
酒井 暁光  
阪本 果穂  
佐橋 暁光  
地主 侑真  
清水ひなた  
杉岡 明瑩  
鈴木 桃苑  
鈴木 美咲  
鷺見愛嬉子  
清野みのり  
高柳 藍玉  
竹島 優扇  
多湖 裕美  
田中 碧珠  
田中 遥菜  
谷本 棣華  
俵 英津子  
辻 仲堂  
都筑 三舟  
寺西 蘭奈  
豊場 朱音  
中島 節子  
中野 貴美恵  
中村 隆子  
西田 志帆  
蜷川 晴秋  
則竹 未来  
橋本佳代子  
畑中 葵  
端場 心咲  
早川智津子  
林 桂蘭

古池 恵舟  
小柴 雲涯  
後藤 千紗  
後藤 明華  
近藤 華仙  
近藤 緩苑  
佐伯つた子  
榊原 充  
佐藤 青晨  
佐脇 玲光  
柴田 隆  
下橋 翠屋  
鈴木 香春  
鈴木 裕乃  
鈴木 蘭華  
墨 紫水  
高野 修清  
竹内優希奈  
竹田 翔哉  
田中愛結美  
田中 深紀  
田羅原星麗  
柘植 悠香  
土屋 晴菜  
寺田 智咲  
富田 黄徑  
中浦 亨  
中嶋 佳風  
仲田 沙絵  
中村 綾花  
名節 早苗  
西原 昌彩  
野田 彩帆  
萩本 千春  
橋本 昌子  
服部 尚香  
早川 翠泉  
林 步美  
林 宏子



二科 (第一部) 当番審査員



一科五部審査風景

山下	山崎	山口	山川	八代	諸戸	森	森	村木	向井	宮田	三井	松山	松任	松崎	松浦	本庄	堀田	古川	福井	深	久	坂	林
真穂	遙華	扇翠	有響	佳奈	瑠香	美保子	愛城	勇介	香凜	莉子	順子	理葉	紀柳	奈那	奈央	聡子	晃代	咲友梨	優夏	瑠光	清澄	真緒	萌苑
山田	山路	山崎	山口	山川	柳生	森	森	室賀	村井	三好	宮崎	水谷	松波	松島	松尾	前川	堀部	細川	船橋	深谷	日高	肥後	原
照景	彩珠	秀華	翔大	遥歌	心露	游泉	寿光	由美	観月	璃奈	礼堂	玲翠	玉苑	亜実	美依	琴舟	香雨	萬花	朴峰	梨可	僚星	朋夏	凌山
加藤	鹿島	奥谷	小川	岡本	大山	大野	大竹	海老原	浦崎	梅田	岩田	井上	伊藤	板元	飯田	浅野	青木	佳	米山	吉田	山本	山田	山田
翠恵	節子	彩虹	大輝	秀翠	和輝	剛宏	瑞光	桜彩	由依	翠歩	清子	亜耶	碧泉	健太	涼雅	美智子	琴音	心華	白玲	愛依	蘭馨	哲也	
加藤	加藤	小野	小川	尾河	岡田	大八木	大沼	大倉	浦崎	梅本	岩本	井上	犬飼	伊藤	泉	飯田	青山		吉野	吉田	山田	山田	
教子	真郷	坂徑	蓮華	京香	樹里	梨湖	柚葵	悠莉	由奈	咲良	紫光	秀華	美音	春陽	明岳	結衣	瑠華		友海	光苑	里秋	七愛	

長谷川	野村	野中	新實	夏目	中村	中西	中島	永井	富田	徳田	鶴田	土田	棚橋	竹村	滝	鈴木	杉山	杉原	菅野	清水	島戸	澤田	佐藤	櫻井	坂井	斎藤	小松	駒田	小林	小島	幸田	黒野	北川	神戸	河邊	川口	金子	加藤	
美	ゆい	美里	津子	汰知	宏紀	五十鈴	直苑	恭子	椰旺	和	葵	流麗	秋麗	東雲	結佳	芳華	光彩	叶夢	凛々	颯天	麻椰	有咲	麗佳	緑風	美佑	美禮	美子	秀果	葵琳	采也	莉桜	信美	真希	春泉	多桜	翠風	紫和	楓華	
長谷川	長谷川	野村	新美	南條	夏目	長野	永田	中神	鳥谷	戸部	寺野	恒松	柘植	田中	竹内	高見	鈴木	杉山	菅原	神野	清水	重富	澤田	佐々木	櫻井	酒井	齊藤	小松	小林	後藤	古久根	高	金原	岸田	神林	川瀬	兼村	金岩	
美月	文音	婉麗	洋子	菜々美	春園	有紗	千紘	さくら	綾音	杏梨	静華	咲愛	帆夏	徳真	悟堂	紀子	聖阜	佳麗	美緒	景泉	佳風	直子	彩華	清秀	翠陽	美音	美愛	稔	蒼以	伊莎	伊莎	輝茂	萌里	雅代	桜華	出雲	祐泉		
川島	壁谷	加藤	岡林	大八木	太田	内田	魚住	伊豫田	伊藤	板倉	石塚	池田	安藤	青山	入	渡邊	吉田	山竹	山田	山田	山田	築瀨	諸戸	森	森	室伏	村瀬	宮崎	松田	松井	寶正	藤本	藤井	廣川	東迫	林	濱中	馬場	畑
翠汀	清蘭	遊紫	知希	佑季	穂花	咲子	千花	峻亮	悠華	章子	乃英	吉隆	遙	花心	選	以子	裕子	莉奈	真稀	沙輝	輝香	有彩	翔太	霞春	麗春	心菜	百輝	清翔	美嗟子	健太	佳子	理子	沙実	華汀	康子	之介	優風		
河田	河合	加藤	葛西	緒方	大塚	大澤	鶴飼	上田	井上	板谷	磯部	石川	飯田	浅井		渡部	若林	横谷	山田	山田	山口	八木	森本	森	茂木	村松	三輪	松本	松井	保坂	二村	藤目	廣阪	平松	飯谷	濱野	濱田	服部	
遊雪	瑛仙	るり	那菜	香扇	さな	玲子	桃菜	紫音	清子	翠里	莉帆	希風	旺生	雅也		譽子	真末	令子	陽子	紗季	佳穂	結菜	愛琉	寧々	翠葉	なえ	曉春	桃花	楓良	健心	杉江	清流	乙起	朋子	兼伍	美咲	壯真		



二科 (第二~五部) 当番審査員



第七十四回中日書道展  
当番審査員

特別賞選考委員(四十一名)

樽本樹邨 安藤藤滴 安藤秀川 鬼頭翔雲 伊藤昌石 加藤華石 後藤汀華 早川泰山 上田賦草 中村秀峰 伊藤仙游 加藤裕仙 横井宏軒 伊藤藤小 大藤青嵐 神谷光園 鈴木立齋 武内峰敏 原田凍谷 廣澤凌舟 水野峯翠 山本雅翠 村上雅麗

一科審査員  
第一部(漢字)(三十二名)

浅井径桜 石上桃李 入谷霞流 緒方津苑 金丸翠石 川浦碧苑 小島泰濤 高橋華子 寺尾桑林

第二部(かな)(八名)

今枝節峰 北村光苑 高根桂祥 馬場紀行 吉澤劉石

第三部(近代詩文)(十四名)

浅井明奈 川口碧水 後藤啓太 式守白萩 鈴木太野 鈴木木野 武内凍山 前田幽汀 松元彩華

第四部(少字数)(四名)

犬塚玉陽 杉坂育子 波切童州

第五部(篆刻・刻字)(三名)

磯貝弘子 日比野妃扇 紀藤捷庵

二科審査員  
第一部(漢字)(四十四名)

荒木友梅 石川瑞祥 大橋一氏 奥野望洋 川端柳園 北村虹景 倉知葉舟 五井花径

第二部(かな)(十一名)

浅野多鶴 太田葉子 榊原春子 福井尚秀 吉澤有岐子 横井静嘉

第三部(近代詩文)(十六名)

浅野多鶴 太田葉子 榊原春子 福井尚秀 吉澤有岐子 横井静嘉

第四部(少字数)(三名)

今井春陽 加藤芳恵 志村峯遠 田中照葉 土川青翠 平井華泉 三上啓鳳 三輪蘇生

第五部(篆刻・刻字)(三名)

永田美幸 吉兼理樹 堀稻垣梅肇

審査部

○部長 横井宏軒  
○副部長 大池青岑

○主任 磯谷凄聴

○(一部) 岡野楠亭

○(二部) 加藤童州

○(三部) 近藤浩乎

○(四部) 波切童州

○(五部) 山田翠山

○(一部) 内田翠径

○(二部) 山中桂山

○(一部) 天野白雲

○(二部) 伊藤昌園

○(一部) 上小倉積山

○(二部) 村上俊彦

○(一部) 馬場紀行

○(二部) 佐野翠峰

○(一部) 後藤啓太

○(二部) 神谷光園

○(一部) 日比野妃園

○(二部) 田中修文

○(一部) 長谷川大結

○(二部) 福井大燿

○(一部) 溝口大香

○(二部) 森田大香

○(一部) 矢田部琴舟

○(二部) 永田美幸

○(一部) 吉兼理樹

○(二部) 堀稻垣梅肇

○(一部) 堀稻垣梅肇

○(二部) 堀稻垣梅肇

○(一部) 堀稻垣梅肇

○(二部) 堀稻垣梅肇

○(一部) 堀稻垣梅肇

○(二部) 堀稻垣梅肇

# 令和7年度総会 第74回中日書道展

# 祝賀懇談会

## 祝賀懇談会を開催して

厚生部長 伊藤 昌 園

令和七年六月八日(日)名古屋東急ホテル ヴェルサイユの間に於いて令和六年度第七十四回中日書道展祝賀懇談会が参加者六一七名にて盛大に開催されました。開会に先立ち、直前に行われた理事改選にて決定した、新理事長・副理事長が紹介されました。その後、松下英風先生のお言葉で開会した祝賀懇談会は、まず初めに神田真秋名誉会長から、コロナ禍の大変な時期も含め三期、昨年の九十周年記念事業も盛大に成し遂げられた伊藤仙游理事長はじめ、それを支えた副理事長の先生方へねぎらいのお言葉と、松下英風先生を中心とする中部日本書道会を担う新たなメンバーへの激励のお言葉を賜りました。その後、ご来賓を代表し、愛知県知事大村秀章様より「こんなにたくさんの方がお集まりになり大変立派な会だと感銘しております。また、御入選ご受賞された皆様には心からお祝い申し上げます。今後とも日本の伝統文化である書の世界を盛り上げていただきますようお願いいたします。」と

ご祝辞を頂きました。続いて、中日新聞社事業局長池田千晶様。最後に東海テレビ放送取締役事業局長吉田明弘様。と三名よりご来賓を代表しご祝辞を賜りました。ご来賓出席者十四名のご紹介が行われた後、CBCテレビ特別顧問林尚樹様のご発声で祝宴が始まりました。

祝宴の途中では、安藤滴水名誉副会長より三期理事長を務められました伊藤仙游先生へ花束の贈呈が行われました。その後、ご長寿紹介が行われ、新理事長に就任された、松下英風先生より、記念品が授与されました。

二時間余りの宴も、横井宏軒副理事長の閉会の辞により、祝賀懇談会を盛況のうちに無事終えることが出来ました。今年から厚生部長が司会進行を行う事となり、不慣れでお聞き苦しい点が多々あったと思いますが、沢山のご参加をいただき、皆様には深く感謝申し上げます。



愛知県知事  
大村秀章様



本会名誉会長  
神田真秋様



東海TV放送取締役事業局長  
吉田明弘様



中日新聞事業局長  
池田千晶様



CBC テレビ特別顧問  
林 尚樹様



祝賀懇談会 乾杯風景

## ご長寿お祝い顕彰者

本年度米寿をお迎えの方で、  
第七十四回中日書道展出品者

- |             |        |     |        |
|-------------|--------|-----|--------|
| 名譽会長<br>代名行 | 樽本 樹郎氏 | 評議員 | 高木 愛子氏 |
| 参与          | 鈴木 瑞象氏 | 評議員 | 帯刀 溪石氏 |
| 評議員         | 小島 雪舟氏 | 正会員 | 井上三保子氏 |
| 評議員         | 斉藤 千秋氏 | 正会員 | 水谷サト子氏 |
| 評議員         | 新美 珠光氏 | 正会員 | 岩瀬 房子氏 |
| 評議員         | 森 冬華氏  | 正会員 | 後藤 蘭徑氏 |
| 評議員         | 安藤 佳舟氏 | 正会員 | 林 節香氏  |
| 評議員         | 村瀬 竹風氏 | 正会員 | 宮田 昭子氏 |
| 評議員         | 寺島 春恵氏 | 準会員 | 加藤 真郷氏 |
| 評議員         | 内本 久園氏 | 会員外 | 岡田 紀水氏 |
| 評議員         | 佐々木博山氏 |     |        |

## 祝賀懇談会ご来賓出席者名簿

- |                            |        |
|----------------------------|--------|
| 本会 名譽 会長                   | 神田真秋様  |
| 本会 名譽 顧問・愛知県知事             | 大村秀章様  |
| 本会 名譽 顧問・衆議院議員             | 近藤昭一様  |
| 中日新聞社 事業局長                 | 池田千晶様  |
| 中日新聞社 事業部長                 | 上野充浩様  |
| 東海テレビ放送 取締役事業局長            | 吉田明弘様  |
| 東海テレビ放送 事業局ゼネラルプロデューサー     | 加藤昭宏様  |
| CBCテレビ 特別顧問                | 林 尚樹様  |
| CBCテレビ CBCクラブ事務局長          | 原 美紀様  |
| 一般社団法人愛知県の障害児者生活サポート協会 理事長 | 川崎純夫様  |
| 本会 外部 理事                   | 井後尚久様  |
| 本会 外部 監事                   | 酒井喜久治様 |
| 司 法 書 士                    | 輿水城治様  |
| 税 理 士                      | 谷田義弘様  |

# 第七十四回中日書道展を終えて 第一事業部長 後藤 啓太

第七十四回中日書道展は、愛知芸術文化センター愛知県美術館ギャラリー八階A室（I室を第一期の六月十八日（水）～二十二日（日）、第二期の六月二十五日（水）～二十九日（日）の二週間と、名古屋市民ギャラリー栄七階・八階の全室にて、六月十七日（火）～二十二日（日）まで開催しました。

今回は、審査顧問から参与以上の作品と、第七十五回中日書きぞめ展上位作品の展示を二週間、更に第二期では障害者アーツ・アールブリュット「書」の作品を展示しました。

## 《二科審査・一科審査・特別賞選考》

伏見の電気文化会館五階（全フロア）を使い審査を行いました。どの審査も厳正かつ公平な審査でありましたことをご報告申し上げます。

## 《中日展運営委員会》

中日展に先立ち、四月十三日（日）、名古屋東急ホテル錦の間にて、中日展運営委員会を開催しました。

この会はコロナ禍で中止となっておりましたが、本年は本会役員と主任の先生方の一二四名にて、第七十四回中日展の運営について確認をしました。

## 《展示会場》

通常の会員作品展にくわえ、障害者アーツ・アールブリュット「書」の展示は二回目となり、見応えのある作品が多くありました。

会場のどの作品も中日書道会らしいレベルの高い作品群であり、たくさんの書道

ファンにお褒めの言葉を多数頂きましたこと、ご報告申し上げます。

今回は、六月二十一日（土）午後一時三十分より本会 匠の書展作家による揮毫会が開催されました。漢字部から天野白雲・磯谷凌聴・梶山盛涛先生。かな部から水野峯翠先生。近代詩文書部は川合玄鳳先生・後藤啓太。少字数部は波切童州先生。篆刻部から日比野妃扇先生の八名が、それぞれの書風で揮毫披露をされました。

たくさんの方々に揮毫会を観て頂くことができ、会場では「今後も書家の技を見る機会を作ってほしい」と嬉しいお言葉を頂戴しました。

## 《第七十四回中日書道展 反省会》

本年は、理事および関係の先生方、協賛会員の皆様から、反省点・ご意見・ご要望を頂き、七月三十一日（木）新旧の理事長および関係の部長と協賛会員の皆様との意見交換会を本部にて行い、今後の参考にさせて頂くことをお約束しました。

来年の変更点は、今年度審査会場の名古屋電気文化会館の改修工事があり使用できないため、名古屋市民ギャラリー栄の七階・八階全室を使い審査をすることになります。

例年とは違いご不便をお掛けしますが、何卒ご理解よろしくお願い申し上げます。

中日書道展の成功は、会員の皆様、協賛会員の皆様のご協力なくしてはありえません。より高いレベルの素晴らしい展覧会「中日展」が開催できますよう、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



会場風景



アールブリュット「書」展示会場



運営委員会



作品陳列風景

# 中日書道会 書の匠展作家

# 席上揮毫会



梶山盛清



磯谷凌聴



川合玄鳳



後藤啓太



日比野妃扇



天野白雲



波切童州



水野峯翠



揮毫会風景



伊藤仙游理事長

**書の匠展**  
 9月21日(土) 13:30~  
 豊田美術館ギャラリー6階

**作家による揮毫会**

1	磯谷凌聴	近現代詩文
2	後藤啓太	漢字
3	天野白雲	漢字
4	水野峯翠	漢字
5	梶山盛清	近現代詩文
6	川合玄鳳	漢字
7	日比野妃扇	漢字
8	波切童州	少字数

(揮毫順)

中日書道展

第七十四回中日書道展開催中の六月二十一日(土)午後一時三十分より中日書道会書の匠展作家による揮毫会が愛知県美術館ギャラリー八階エントランスホールにおいて行われました。

揮毫会は、伊藤仙游理事長の挨拶で始まりました。今回の揮毫者は、「磯谷凌聴(漢字)、後藤啓太(近代詩文)、天野白雲(漢字)、水野峯翠(かな)、梶山盛清(漢字)、川合玄鳳(近代詩文)、日比野妃扇(篆刻・刻字)、波切童州(少字数)(敬称略・揮毫順)」の八名の先生方が揮毫されました。

当日は、開会前から多くの方々がお会場にお越しいただき、揮毫される周りを二重三重に囲まれ、また中二階から

も熱心に最後まで立たれて長時間ご覧いただきました。本会五分野(漢字、かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字)の先生方が、それぞれの分野の書体の特徴・特色・書風をだして各自の表現で揮毫されていました。どのよう

に紙面に向かい揮毫されるか、墨のつけ方、墨量の過多、墨色の美しさ、運筆の筆さばき、流麗な線、筆の勢い、強弱、紙面の構成、表現方法など作品が出来上がる過程を目の当たりに見させていただきました。

展示会場に展示されている作品を鑑賞する事は多いかと思いますが、その作品が出来上がる制作過程を直接ご覧いただけただけの良い機会であり、何か

しらご参考になった部分もあったかと思えます。

揮毫者がどのように運筆し紙面に作品を書かれるか非常に興味深く熱心に最後までご覧いただいております。ところが印象的で感謝申し上げます。

なお、書道のユネスコ無形文化遺産登録が令和八年十二月頃決まるかと存じます。書法の表現、書道の技の保持、継続し次世代に継承されることを希望し、今後も多くの皆様に展示会、揮毫会などご鑑賞いただき書道に親しんでいただければと存じます。

副理事長 横井宏軒  
 事務局長

# 令和七年度

第一回 理事会	四月十三日(日)	名古屋東急ホテル
第二回 理事会	五月十七日(土)	安保ホール
第三回 理事会	六月八日(日)	名古屋東急ホテル
第三回 理事会	六月八日(日)	名古屋東急ホテル

## 令和七年度第一回理事会開催

令和七年度第一回理事会は、四月十三日午後三時三十分から「名古屋東急ホテル」にて開催されました。理事三十二名の出席で、伊藤仙游理事長の挨拶で始まり、以下に示しました第一号議案から第三号議案・第五号議案は審議の結果承認され、第四号議案については経費削減などを優先することとしこの議案は廃案となった。報告事項として、理事長・副理事長の職務の執行状況について伊藤理事長から報告があった。

- 第一号議案 令和七年度総会の日時及び場所並びに目的である事項の承認に関する件
- 第二号議案 新役員選考委員選出に関する件
- 第三号議案 外部理事・外部監事の選任に関する件
- 第四号議案 年会費の承認に関する件
- 第五号議案 定期預金の取り崩しに関する件
- 報告事項一 理事長・副理事長の職務執行状況について



第1回理事会風景

## 令和七年度第二回理事会開催

令和七年度第二回理事会が五月十七日午後四時から「安保ホール」にて開催されました。理事三十二名の出席で、伊藤仙游理事長の挨拶で始まり、以下に示しました第一号議案から第六号議案について慎重かつ熱心に審議され全て承認されました。報告事項として、理事長・副理事長の職務の執行状況について伊藤理事長から報告があった。

- 第一号議案 令和六年度事業報告書の承認に関する件
- 第二号議案 令和六年度収決算書の承認に関する件
- 第三号議案 令和六年度財産目録の承認に関する件
- 監査報告
- 第四号議案 規定改正に関する件
- 第五号議案 理事・監事の選任に関する件
- 第六号議案 名誉顧問の承認に関する件
- 報告事項一 理事長・副理事長の職務執行状況の報告



第2回理事会風景

## 令和七年度総会開催

令和七年度公益社団法人中部日本書道会総会は、「名古屋東急ホテル」にて六月八日午後二時から開会に先立ち令和六年度にご逝去されました先生方に哀悼の意を表して黙祷をささげました。総会は、伊藤理事長の挨拶に始まり、以下の議案について終始熱心かつ慎重に審議され全て承認されました。

- 第一号議案 令和六年度事業報告書の承認に関する件
- 第二号議案 令和六年度収支決算書の承認に関する件
- 第三号議案 令和六年度財産目録の承認に関する件
- 監査報告
- 第四号議案 規定改正に関する件
- 第五号議案 理事・監事の選任に関する件



総会風景

## 令和七年度第三回理事会開催

令和七年度第三回理事会は、総会終了後新たに選任された理事により、名古屋東急ホテルにて開催されました。議案にそって慎重に審議され全ての議案が決定しました。

- 第一号議案 理事長・副理事長の選定について  
理事長 松下英風  
副理事長 後藤啓太、山本雅月、梶山盛涛
- 第二号議案 退任理事・監事の役職人事について  
理事 伊藤仙游、岡野楠亭、加藤裕  
武内峰敏、波切童州、村瀬俊彦  
横井宏軒、川崎尚麗（ご逝去され）  
監事 遠藤栄久、田中石雲
- 第三号議案 事務局編成について  
本部署事務局及び支部長



第3回理事会風景

第118回 日展 審査員

鬼頭翔雲先生

(本会関係分)

令和7年度・8年度 中日書道会事務局一覽

事務局長

佐野 翠峰

企画委員長

大池 青岑

総務部

部長 天野 白雲  
次長 高橋 花柊  
委員 原 霞扇  
仙石 祥香  
水野 清花

庶務部

部長 廣澤 凌舟  
次長 内山 蘭月  
委員 中川 星光  
岡田 恵香  
前田千登世

企画部兼IT部

部長 上小倉 積山  
次長 庄田 華鳳  
委員 高桑 嚴風  
鳥居 柳城  
新美 秋鳳  
安藤 雄岳  
小掠 雄大  
後藤 秀徹

委員

後藤 秀徹

会員部

部長 水野 峯翠  
次長 五井 花徑  
委員 堀部 保子  
竹内 清泉  
保子

第一經理部

部長 神谷 光園  
次長 黒柳 真実  
委員 永田 美幸  
矢田部 琴舟  
犬塚 玉陽  
黒柳 景光  
柴田真由美  
鈴木 容華  
竹内 紫燕

第二經理部

部長 丸山 聖峰  
次長 土屋 春聲  
委員 松崎 青蓮  
杉本 扇鈴  
丹羽 茜麗  
村田 華雪

事業部

部長 山中 桂山  
次長 伊高 美秀  
委員 伊藤 龍仙  
奥村 三葉  
黒川 虚宇  
豊永 御風  
松佐古 溪水  
飯田 瑤華  
梶田 汀雨  
加藤 杏華  
近藤 梅鶯  
佐藤 晨麗  
戸松 香苑  
丹羽 彩霞  
早川 杏花

研究部

部長 磯谷 凄聴  
次長 岩田 緑汀  
委員 武田 晶庭  
原賀 瑞芳  
井谷 李春  
伊藤 稚子  
内川 昌子  
川崎 清吟  
高田 幸枝  
勅使河原 恵翠  
浜野 春瑛  
平川 彩舟  
本田 吉華  
川本 大幽

教育部

部長 川本 大幽

褒賞部

部長 柘 英峰  
次長 相川 千涯  
委員 青木 榮俊  
関根 玉翠  
三代 雄峯  
水田 珪華  
溝口 子静  
吉澤有 岐子  
石原美 佐江  
伊藤 江麗

渉外宣伝部

部長 伊藤 昌園  
次長 小林 雅子  
委員 須田 静波  
藤村 真徳  
伊藤 祥子  
岡田 愛子  
貴島 小舟  
木俣 紫邑  
平 富耀  
畑 裕子  
吉原 愛璃

記録統計部

部長 衣川 彰人  
次長 小宇佐 久美  
委員 高橋 栖雲  
永平巳 旺子  
森 絹泉

編集部

部長 馬場 紀行  
次長 石黒 直子  
委員 川合 玄鳳  
伊藤 弥生  
上野 明美  
葉名 孝枝  
佐藤 典子  
馬場 景子

厚生部

部長 清水 春蘭  
次長 浅井 明奈  
委員 伊藤 静雅  
亀井 小琴  
佐藤 悦子  
谷口 大観  
永谷 恵子  
福井 芳子  
松元 彩華  
石井 小湖  
稲吉 小夜子  
大沢 真弓  
小野田 美晴  
鈴木 裕子  
楯 芳琴  
羽根 寿子  
福山 恵山  
横井 琴泉  
和田美 智子  
村上 史麗

一宮支部

支部長 村上 史麗

次長

牧 仙岳

半田支部

支部長 杉江 花城  
次長 北川 翠苑

西三河支部

支部長 加藤 矢舟  
次長 磯谷 凄聴

東三河支部

支部長 皆川 嗣恵  
次長 大野 彩

濃飛支部

支部長 堀 梅肇  
次長 中垣 幸聲

北勢支部

支部長 荒木 友梅  
次長 高橋 華堂

中南勢支部

支部長 堀田 花  
次長 谷 鴻風

岐阜支部

支部長 鈴木 蘭峰  
次長 伊藤 小游

次長

森本 夏溪

## 協賛会員一覧

浅井梧竹堂	452-0823 名古屋市西区あし原町68-1	052-504-2703	(有) 高誠堂	440-0804 豊橋市呉服町44	0532-52-5514
(株) 荒川印刷	460-0012 名古屋市中区千代田2-16-38	052-262-1006	光文堂(株)	461-0005 名古屋市中区東桜1-3-28	052-961-6866
石黒五雲堂	453-0834 名古屋市中村区豊国通4-46	052-412-7862	小松表具店	485-0831 小牧市東2-544	0568-75-0281
(株) 一休園	731-4221 広島県安芸郡熊野町出来庭2-2-44	082-854-0019	書遊 川口春霞堂	460-0008 名古屋市中区栄1-8-18 堀田ビル2F	052-444-8024
伊藤大林堂	465-0004 名古屋市中東区香南1-507 長谷川コーポ1F	052-776-1881	書遊 平野筆墨堂	460-0008 名古屋市中区栄1-8-18 堀田ビル2F	052-854-7567
印刷屋九二八(株)	497-0011 あま市七宝町安松13-9-1	052-443-1190	(有) 真清社	460-0007 名古屋市中区新栄1-47-5	052-241-8085
ウサミ印刷(株)	451-0066 名古屋市西区児玉1-10-7	052-522-2361	(株) 青柳堂	460-0008 名古屋市中区栄4-1-8 中区役所ビル1F	052-259-0313
(株) 應天堂	501-1172 岐阜市下鶴飼1468	058-239-5200	(株) 大玄堂	500-8289 岐阜市須賀1-8-25	058-271-2662
オフィスイズ	511-0243 三重県員弁郡東員町穴太1248-3	0594-76-3976	大同印刷(株)	501-6241 羽島市竹鼻町3214	058-392-2345
開明株式会社	101-0032 東京都千代田区岩本町3-6-10 8F	03-5829-5560	中電不動産(株)	460-0008 名古屋市中区栄2-2-5 電気文化会館	052-204-1383
加藤長寿堂	453-0809 名古屋市中村区上米野町4-24 吉田ビル1F 1B号室	052-452-4751	(株) 長楽斎筆舗	460-0007 名古屋市中区新栄3-18-24	052-263-4554
(有) 伽藍	460-0011 名古屋市中区大須3-8-10	052-242-7741	名古屋キョー和	460-0008 名古屋市中区栄4-2-10 小浅ビル2F	052-263-9401
(有) 菊屋商店	460-0007 名古屋市中区新栄2-1-46	052-241-1145	㈱名古屋ハウコドウ	486-0836 春日井市八事町1-190-3	0568-89-7788
(有) 吸月堂	462-0844 名古屋市中区清水2-2-2	052-931-6948	西川堂森表具店	491-0883 一宮市下田2-4-25	0586-72-3629
(有) 共栄エージェンシー	468-0069 名古屋市中区表山3-2418	052-835-6647	(株) ビーエス観光 (名古屋営業所)	460-0022 名古屋市中区金山2-1-24 五藤ビル4F	052-332-1261
(株) 玉蘭堂	177-0051 東京都練馬区関町北1-1-4 WHITE BIRCH 406	03-3499-4886	(株) 美創堂	486-0831 春日井市ことぶき町8-1	0568-81-9236
(株) 金工堂	460-0003 名古屋市中区錦3-16-22	052-961-0151	(株) 墨運堂	630-8043 奈良市六条1-5-35	0742-52-0310
金陽堂表具店	471-0076 豊田市久保町3-27-1	0565-32-0863	(株) 三重軸装	516-0028 伊勢市中村町607-28	0596-27-2292
(株) 呉竹	630-8670 奈良県奈良市南京終町7-576	0742-50-2050			

※本会主催の書道展は必ず上記の協賛会員店舗をご利用下さい。

令和 7 年 (2025 年) 度 公益社団法人中部日本書道会

行事予定表「10 月～3 月」

※実施予定が決まっている行事を掲載しました。  
 ※行事が変更になる場合がありますので、事前の案内でご確認ください。

月	日	曜	本 部	支 部		
				「支部展・支部集会・交流会・講演会・研修会・学生(学童)書展」		
10	11	土			第 59 回半田支部展 (半田市福祉文化会館)	
	12	日			〃	西三河支部研修会 東三河研修会・講習会
	19	日	第 37 回書道教育研究会 (名古屋国際センター)			
	26	日				一宮支部研修会
	29	水				西三河支部研修会
11	初旬					濃飛支部研修会
	5	水			第 38 回中南勢支部展 (三重県立美術館)	
	6	木			〃	
	7	金			〃	
	8	土			〃	中南勢支部集会・記念講演会 (三重県立美術館) 懇談会
	9	日			〃	
	13	木				第 83 回一宮市美術展 (一宮スポーツ文化センター)
	14	金				〃
	15	土				〃
	16	日				〃
	22	土			第 70 回一宮支部展 (一宮スポーツ文化センター)	第 53 回一宮支部学生書道展 (一宮スポーツ文化センター)
	23	日			〃	〃
	25	火		2025 年チャリティー愛の募金		
	26	水	第 6 回書の匠展 (電気文化会館)			
	27	木	〃			
28	金	〃				
29	土	〃				
30	日	第 30 回書の魅力 公開講座 (電気文化会館)				
12	初旬		手書き文字年賀状コンクール 作品募集			
	6	土				いちのみやアートアニュアル 2025 (一宮市博物館)
	21	日				
1	6	火				第 5 回東三河こども書道展 (豊橋市美術博物館)
	7	水				〃
	8	木				〃
	9	金				〃
	10	土				〃
	11	日				〃
2	8	日	理事会・評議員会 (東急ホテル)			
	11	水			第 58 回西三河支部会員展 (岡崎市美術館)	
	12	木			〃	
	13	金			〃	
	14	土			〃	西三河支部集会・講演会 (岡崎商工会議所)
	15	日			〃	
	中旬					岐阜支部講演会
22	日				一宮支部集会・講習会 (一宮スポーツ文化センター) 一宮支部交流会	
3	14	土	第 76 回中日書き初め展 (ナディアパーク 2F アトリウム)			西三河支部研究会
	15	日	〃	第 76 回中日書き初め展表彰式		〃
	下旬					一宮支部第 54 回真清田神社 献書大会

# 公益社団法人中部日本書道会

## 第37回 書道教育研修会のご案内〈実技講習〉

この研修会は、書道教育者の養成及び書道教育の普及を目的として開催します。

- ◆期 日 令和7年10月19日(日)
- ◆会 場 名古屋国際センター 5階第1会議室
- ◆受 付 9:15~9:40
- ◆内 容 9:45~ 開会式  
9:55~ 書道講話  
中部日本書道会理事長  
松下英風先生  
10:30~12:20 実技講習【漢字】  
中部日本書道会副理事長  
梶山盛涛先生  
12:20~13:30 昼 食  
13:30~15:20 実技講習【少字数】  
中部日本書道会理事  
神谷光園先生  
15:45~16:00 閉会式



●必ず午前、午後共受講して下さい。 ●実技講習ですので用具一式を持参して下さい。

※講習で使用する書道用紙は、当日全員にお配りいたします。

※基本的文具、教材は会場でも販売する予定です。本年は「大玄堂」が出店いたします。

◆受講資格 本会会員及び一般(本会会員で書道教育推薦看板申請希望者のうち準会員の方は必修です。)

◆受講料 本会会員 無料 / 一般 3,000円 (用紙代・資料代)

◆定員 56名

◆申込方法 郵便番号、住所、氏名、電話番号、本会会員資格又は一般の別を明記の上、ハガキ又はメールでご応募ください。FAX・電話でのお申し込みは、お受けできません。

【ハガキ応募先】〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑山ビル8階C号室  
公益社団法人 中部日本書道会 書道教育研修会係

【メール応募先】 kensyu@cn-sho.or.jp

◆申込期間 令和7年9月26日(金)~10月10日(金) 本部にて申込到着順に受付いたします。

定員になり次第締め切りますのでお早目にお申し込み下さい。

共催 中日新聞社 後援 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会(申請中)

## 「令和7年 チャリティー愛の募金」について

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は、本会の福祉事業に対しまして、ご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本会では、毎年年末に「チャリティー愛の募金」を行っております。つきましては、本会役員の先生方並びに会員の皆様には広く献金をお願いし、中日新聞社会事業団・東海テレビ“愛の鈴”へ寄託をして参りたいと思っております。何卒主旨ご理解の上、下記の通りご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この募金の締め切りを、令和7年11月末といたします。

お申し込みは、あらかじめ郵送された専用払込用紙をご使用の上、お振り込みください。

尚、献金の経過並びにご芳名は1月発行の中日会報でご報告をさせていただきます。

敬具

理事長 松下英風  
渉外宣伝部長 伊藤昌園

### ご献金にお願いの基準

名誉会長代行、名誉副会長、常任顧問、理事、監事、顧問	10,000円
参与、評議員	3,000円
正会員	1,000円

### チャリティー募金は寄付金として控除できます。

確定申告時には、領収書と証明書が必要です。領収書をご希望の方は本部事務局までご連絡ください。

証明書は中部日本書道会ホームページから印刷できます。

ホームページ <http://cn-sho.or.jp/>

メール [info@cn-sho.or.jp](mailto:info@cn-sho.or.jp)

公益社団法人中部日本書道会

令和 7 年度 第 6 回 書の匠展・第 34 回 壽書展

「書は人なり」と言われますように、墨魂のほとばしる躍動の書、基本が物語る清新の書等、書は心の琴線に触れる崇高な芸術です。この混沌とした現代に先生方の熟達の書を広めたくこの展覧会を企画しました。

会 期 令和 7 年 11 月 26 日 (水)～11 月 30 日 (日)

会 場 電気文化会館 東・西ギャラリー

書の匠展

名誉会長・名誉会長代行・名誉副会長・常任顧問・顧問・理事長・副理事長・理事・監事 (年齢制限なし) 満 70 歳 (令和 7 年 4 月 1 日現在) 以上の参与・評議員

壽書展

満 70 歳 (令和 7 年 4 月 1 日現在) 以上の正会員・準会員・会員外

主 催 公益社団法人中部日本書道会・中日新聞社

後 援 愛知県・愛知県教育委員会・岐阜県・岐阜県教育委員会・三重県・三重県教育委員会・名古屋市・名古屋市教育委員会 (申請中)

公益社団法人中部日本書道会

令和 7 年度 第 29 回 書の魅力 公開講座

会員及び一般市民を対象に、中部日本書道会を代表する 2 名の講師が書の魅力について講演します。

11月30日(日)

受 付 12:30～12:50

開会行事 13:00 (理事長挨拶)

第一講座 13:15～14:15

理 事

高木玄齊先生

演題 「隷書への招待」

第二講座 14:35～15:35

理 事

水野峯翠先生

演題 「仮名へのいざない」

閉会行事 15:35

会 場 電気文化会館  
イベントホール (5階)  
名古屋市中区栄 2-2-5

日 時 令和 7 年 11 月 30 日 (日)

会 費 無料  
(ただしテキスト・資料代として 2,000 円集めさせていただきます)

対 象 15 才以上で原則として  
2 講座とも聴講できる方

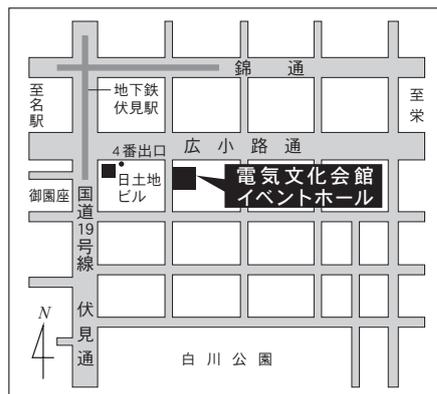
定 員 150 名 (先着順)

申込期間 10 月 20 日 (月)～11 月 7 日 (金) ※受講のお知らせは締切後、発送します。

申 込 (1) 郵便番号 (2) 住所 (3) 電話番号 (4) 姓号 (5) 本名 (6) 会員資格 (または一般) を記載し、ハガキで下記迄お申し込み下さい。

ハガキ申込先

〒450-0002  
名古屋市中村区名駅二丁目 45 番 19 号  
桑山ビル 8 階 C 号室  
中部日本書道会 公開講座係



# 第76回 中日書きぞめ展作品募集

◆会 期 令和8年3月14日(土)・15日(日)

14日(土) 午後1時～午後6時  
15日(日) 午前10時～午後5時

◆会 場 ナディアパーク2F アトリウム  
名古屋市中区栄3丁目18番1号

◆授賞式 令和8年3月15日(日) 午後2時  
ナディアパーク3F デザインホール  
理事長賞以上の生徒さんへ出席していただきます。

◆褒 賞 衆議院議長賞、参議院議長賞、文部科学大臣賞、  
愛知・岐阜・三重各県知事賞、名古屋市長賞、  
愛知・岐阜・三重各県議会議長賞、名古屋市長賞、  
愛知・岐阜・三重各県教育委員会賞、名古屋教育委員会賞、  
中日書道会賞、中日新聞社賞、東海テレビ放送賞、  
CBCテレビ賞(以上申請中)、  
名誉会長賞、理事長賞、推薦、奨励賞、  
特選、準特選、秀逸、佳作、入選  
※会場には奨励賞以上の作品を陳列します。  
★上位作品を令和8年度中日書道展にて展示します。

◆資 格 幼年・小学生・中学生・高校生

◆出品要項 詳しい出品要項出品目録が中日書道会本部にありますので  
お問い合わせ下さい。

◆課 題 自由

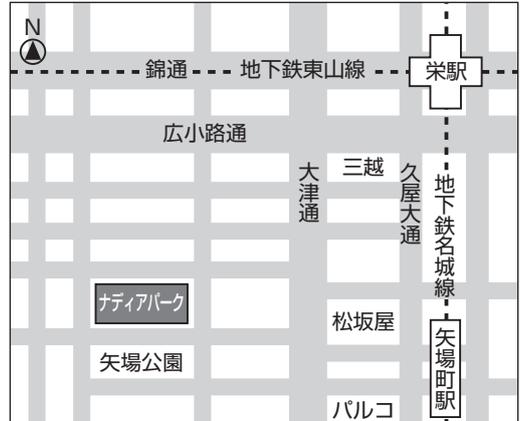
◆作 品 ○用紙は、半切1/4縦(八ツ切) ※高校生は半切縦も可  
○作品は、表装しないこと。  
○書体は、幼・小=楷書、中=楷書又は行書、高校生=自由  
○作品には、学年・氏名を必ず自書すること。  
○高校生は、作品に合わせて署名・押印すること。

◆出品料 500円(出品は一人一点)  
(個人出品者は賞品、賞状の郵送料として300円を加算して下さい。)

◆搬入締切 令和8年1月15日(木) 午前10時～午後3時  
(送付される場合は14日(水)中部日本書道会本部必着をお願いします。)

◆搬入場所 公益社団法人 中部日本書道会  
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号  
桑山ビル8階C号室  
担当 教育部長 川本大幽  
TEL <052> 583-1900 FAX <052> 583-1910

◆取扱所	伊藤大林堂 052-776-1881	青柳堂 052-259-0313
	應天堂 058-239-5200	大玄堂 058-271-2662
	伽藍 052-242-7741	長楽斎筆舗 052-263-4554
	菊屋商店 052-241-1145	名古屋キョー和 052-263-9401
	高誠堂 0532-52-5514	名古屋ホウコドウ 0568-89-7788
	小松表具店 0568-75-0281	三重軸装 0596-27-2292
	書遊 平野筆墨堂 052-854-7567	



### 会場へのアクセス

[電車の場合]

- 名古屋市営地下鉄東山線・名城線「栄」駅下車  
サカエ・チカ7・8番出口より南へ徒歩7分
- 名古屋市営地下鉄名城線「矢場町」駅下車  
5・6番出口より西へ徒歩5分

[車の場合]

- 名古屋高速2号東山線「白川出口」より東北へ約2km
- 名古屋高速都心環状線「錦橋出口」より東南へ約2.5km
- 名古屋高速都心環状線「東別院出口」より西北へ約4.5km

友情の輪

六年 山田太郎

※1038(例)  
※鑑査番号を必ずご記入下さい。  
※初出品の場合は未記入のままです。

①市②町③学校所在地④幼・小⑤中・高の区別がわかるよう記入して下さい。  
鉛筆で表左上に必ずご記入下さい。

⑥学校名にまちがいが毎年多くあります。確認の上、正しく書いて下さい。

# 第8回 手書き文字年賀状作品募集

公益社団法人中部日本書道会では、下記の通り年少者～高校生を対象とした第7回「手書き文字年賀状コンクール」を開催します。個性あふれる心温まる手書きの年賀状を奮ってご応募下さい。

優秀作品を本会ホームページに掲載すると共に、第75回記念中日書きぞめ展会場に展示を予定しています。

入賞者には図書カードを贈呈します。

- 応募規定**
- ・出品料は無料。一人1点のみの出品とし、郵便葉書の大きさに限る。(縦横は自由)
  - ・半紙を郵便葉書の大きさに切ったものを使用した作品は不可とする。
  - ・イラスト等入っていても可とするが、必ず手書きされたものに限る。
  - ・筆記用具は自由とし、小学校3年生以上は毛筆(筆ペンを含む)を奨励する。
  - ・宛名面左側に郵便番号・住所・氏名・学年(年少者は年齢)を明記の上、下記送付先に郵送のこと。

**応募資格** ・年少者～高校生

**応募締切** ・令和8年1月23日(金) 必着

**作品送付問い合わせ先** ・〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑名ビル8階 C号室  
公益社団法人中部日本書道会「手書き文字年賀状コンクール」係  
TEL (052) 583-1900

**入賞発表** ・2月初旬(予定)に本会ホームページにて優秀作品を掲載し発表とする。  
・ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>

## 社中展・個展のご案内

(八月二十六日までの到着分)

### ○第33回 芳墨會書作展

再び生かす―紙を作ってみた―

会期 令和七年十一月

二十七日(木)～三十日(日)

会場 安城市民ギャラリー  
展示室ABC

### ○第79回 全国書道展

主催 新生日本書道会

代表 加藤子華

会期 本年は紙上展での開催

表彰式 令和八年二月一日(予定)

表彰式会場 四日市市総合会館

本会会員による書展のご案内を、会報及びHPにて掲載させて頂きます。

会報掲載には、展覧会案内原稿、HP掲載には展覧会案内ハガキをお送り下さい。尚、展覧会原稿及びハガキは、必ず封書にてお送り下さい。次号掲載は2月から5月開催の展覧会となります。お申し込みは12月20日までに本部までお願いします。  
編集部

## 新入会員紹介

### ●本部

石原 遙佳

河本 眞翔

### ●一宮支部

浅井 玉麗

甲村 和馨

苗代 貴桜

山口 恵萩

### ●西三河支部

浅井 江鳳

岐阜支部

黒川 啓子

近藤 鷺秀

渡辺 美穂



## あとかぎ

・今夏も暑かった。名古屋市の気温は体温を上回る夏日の連続でありました。

・本年は理事長、副理事長、事務局長はじめ各部の改選年度で、新しい船出を切りました。

・第74回中日書道展を特集しました。書を取り巻く経済環境は年々厳しく、日常生活で「書」を全うする事がこれほど乖離した状況は今まで無かったように感じます。

・インスタグラムやXのSNSサイトを覗くと、若者が〇〇展祝賀会にてこやかにピースサインをおくっている光景を見かける……書道界はまだこの数年は存続するかなあと安堵しました。

(編集部)

## 計報

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。(厚生部)

○4月14日	正会員	浅野清澄氏	享年88
○4月17日	正会員	岩瀬祥苑氏	享年84
○4月20日	理事	岩瀬和也様	享年84
○4月20日	理事	川崎尚麗氏	享年68
○5月9日	評議員	大谷素子氏	享年93
○5月15日	評議員	大谷勝則様	享年77
○5月	准会員	加藤一次氏	享年77
○6月8日	評議員	長谷瑞泉氏	享年77
○7月4日	評議員	平賀秀園氏	享年64
○7月28日	ご主人	平賀準一郎様	享年64
○7月28日	理事	小石 順氏	享年64
○8月	ご母室	上小倉積山氏	享年93
○8月	正会員	上小倉イネ様	享年93
○8月	正会員	三輪翠陵氏	享年55
事後報告			
○3月20日	評議員	石川玄風氏	享年96
○3月	正会員	小島大立氏	享年93

(8月26日までの到着分)

ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>  
メールアドレス [info@cn-sho.or.jp](mailto:info@cn-sho.or.jp)